

特118

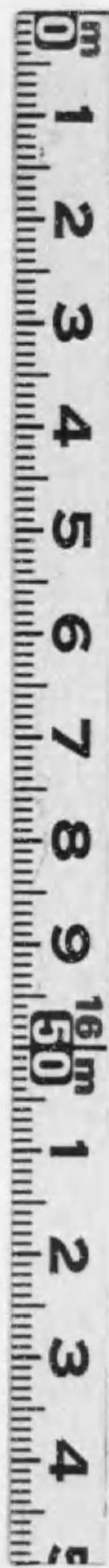
59

天下變遷

七十餘年近世歷史

嵯峨襄平左衛門著

国立国会図書館



始



有所權作著

帝國史談會編

天下
變遷
七十餘年近世歷史

東京 天正堂發行



特118
59

大 久 保 利 通
伊 藤 博 文
星 亨



東 郷 平 八 郎



大 隈 重 信

生麥村事件



文久三年二月

相州浦賀親和條約



嘉永六年六月

西郷月照ノ身投



文久三年三月

江戸大地震



安政二年十月

耕雲齋筑波山旗揚



元治元年五月

櫻田門外事件



萬延元年三月

長州七郷落千



慶應元年四月

坂下門外事件



文久元年正月

震災前の本橋通り



全焼さたれ日本橋附近

鹿兒島戰事



明治十年一月

征韓論



明治六年十月

大久保公暗殺



明治十一年五月

江藤新平兵起



明治七年二月

臼井六郎討仇



明治十三年十月

臺灣事件



明治八年九月

板垣伯遭難



明治十五年四月

前原兵起



明治九年十月

會津白虎隊



明治元年八月

長州征伐



慶應二年六月

函館五稜廓戰事



明治二年五月

伏見戰事



慶應四年四月

明治天皇東行幸



明治二年三月

上野戰事



慶應四年五月

舊曆大陽曆改正



明治五年十月

奧州白河戰事



明治元年五月

相馬家騷動



明治廿六年七月

大隈伯、遭難



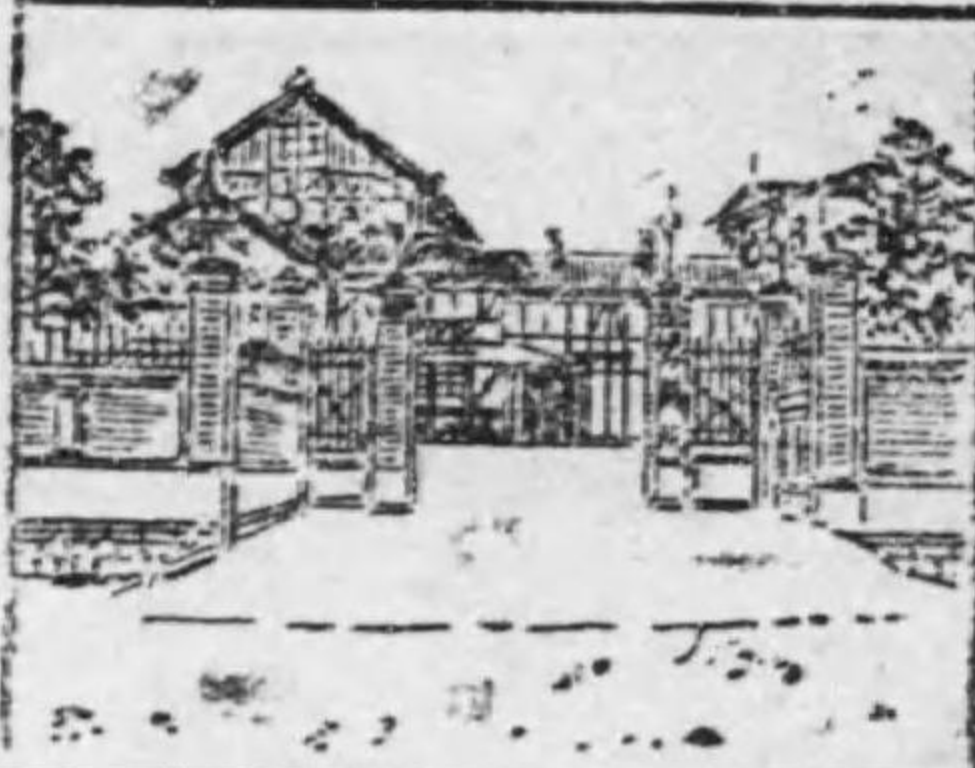
明治廿三年十月

朝鮮東學黨蜂起



明治廿七年五月

帝國會議院開式



明治廿三年一月

大島公使引揚



明治廿七年五月

露國皇太子于津事件



明治廿四年五月

豐島沖海戰



明治廿七年七月

美濃尾張大地震



明治廿四年十月

ノマルント號沈没



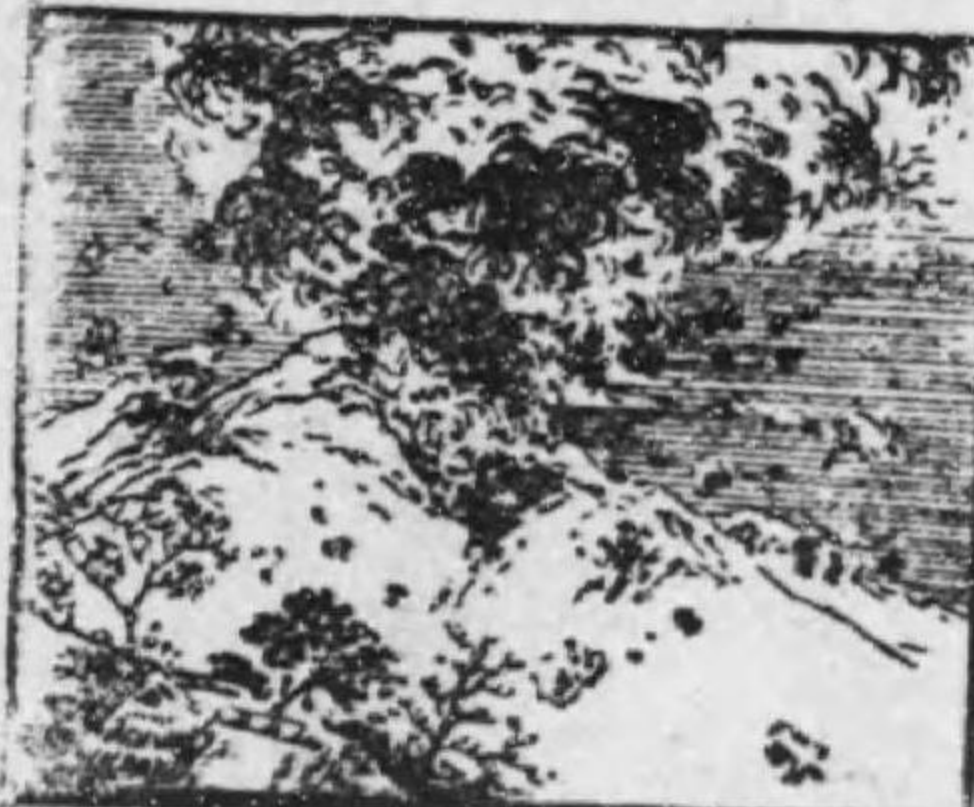
明治十九年八月

京城花房公使事件



明治十五年七月

岩代國磐梯山噴火



明治廿一年七月

福島事件



明治十六年八月

憲法發布式



明治廿二年二月

朝鮮竹添公使事件



明治十七年五月

森文部大臣暗殺



明治廿二年二月

大阪國事犯



明治十七年八月

旅順口開城



明治卅八年一月

露國滿州撤兵事件



明治卅六年六月

奉天占領



明治卅八年三月

仁川港海戰



明治卅七年二月

日本海大海戰



明治卅八年五月

廣瀨中佐戰死



明治卅七年三月

英國艦隊歡迎



明治卅八年十月

南山大激戰



明治卅七年六月

三陸大洪水害



明治廿九年六月

旅順口陷落



明治廿七年十月

清國義和團起事



明治三十三年

威海衛激戰



明治廿八年二月

星亨暗殺事件



明治卅四年六月

日清和平條約



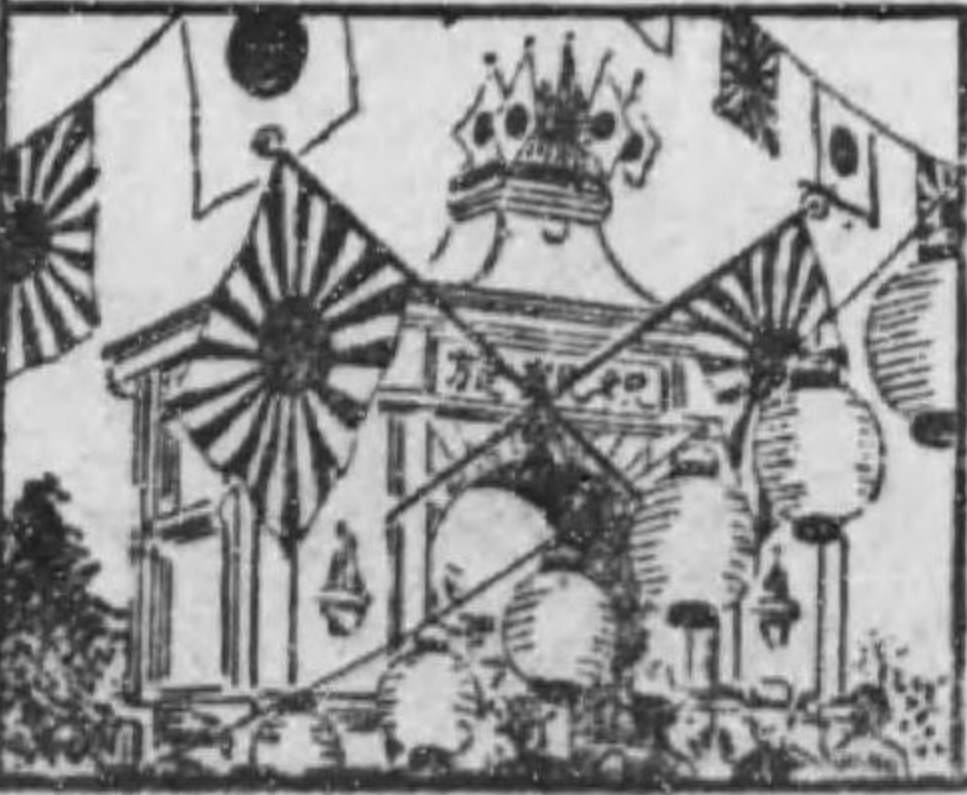
明治廿八年四月

青森五隊凍死事件



明治卅五年十二月

明治天皇御凱旋



明治廿八年五月

精神修養
 卷之二

伊藤公題字

明治神宮本殿



大正九年十月

東京灣大觀艦式



明治卅八年十月

東京宮殿下御歸朝奉迎



大正十年九月

伊藤博文公遺難



明治四十二年十月

安田善次郎翁兇及事



大正十年九月

明治天皇御大葬



大正元年九月

原總理大臣暗殺事



大正十年十一月

尼港虐殺事



大正九年三月

國民 必携 繪入近世歴史

●嘉永五年

此年九月二十二日神武以來の英主にして叙聖文武の明治天皇御降誕遊ばされたり同月二十九日御諱名を睦仁と申あけ又祐宮と申上げ奉る御生母は故從一位大納言中山忠樞の御息女慶子の御方にして世に中第一位の局と申上げ奉る御方なり京都御所にて御降誕遊ばされ中山大納言邸を御養育所と定め中山忠公を御養育掛に任じ御年五歳の折親王御殿に移らせられ故正親町實德卿を傳とし故岩倉具定公裏松良光子等を御學友として御學問あり御父帝及び御母君の御寵愛はまた一層にて御聰明は申すも畏し資性潤達にして文武の道を修め給ひしかば群臣皆未來の英主として畏み敬ひまつりき實にや維新の鴻業明治の治世外は征清征露の二大戦にて國威を宣揚し内は憲法を制定して議會を開設し産業を勤めて國富を増進し我國をして列強の伍伴に入れし御偉徳は既に其の萌芽を此御幼時に發し給ひぬ。

●嘉永六年

六月三日北亞米利加合衆國は水師提督ペルリを使節として軍艦四隻を率ひ相州浦賀港に來り通商貿易を求めしむ時の浦賀奉行戸田伊賀守は與力中島三郎香山榮左衛門を遣はして渡來の事情を問はしめしに使節ペルリ答へて曰く今般遠く萬里の波濤を越へて貴國に來りしは合衆國政府は貴國と和親條約を結び通商貿易を爲さんが爲めに國書を齎らせしなりされば貴國重役と面接の上直ちに國書を捧呈致し度宜敷御取計ひありたしと此時浦賀奉行戸田伊賀守は仰せ御尤もなれど我國は古來より鎖國主義にして外國とは實際致さざれば貴國の望む所甚だ重大にして一存にて返答も致し兼ねば宜しく明年長崎に來りて返事の程相待つべき旨答へければペルリ等は一旦米國へ引取りて明る安政元年正月十七日ペルリ再び相州浦賀港に來りしに我國の返答要領を得ざ

りしかば直に船を神奈川本牧の沖へ乗り入れ空砲を放ち海底の深淺を測量し或は陸上の光景を書き取り其振舞最も怪しかりければ時の町奉行井戸岩見守林大學頭等を以て米國軍艦に至り言はしむるに我國は古來鎖國主義にして外國の船舶猥りに内地の港灣に入り來るを禁ずれば速に船を長崎に廻し返答の程相待つべき旨申入れたり此時使節ペルリ曰く我等再三貴國へ參ると雖も貴國の重役緩漫にして更に要領を得ずされば我等は是より江戸表に至り將軍に而謁して國書を捧呈し返書を得んと其決心確乎として動すべからざれば據なく其趣を幕府へ上申に及ぶ茲に於て時の老中阿部伊勢守は將軍家定公の命により應接役として町奉行井戸岩見守林大學頭を通辯役として堀達之助を派遣し相州三浦郡久里濱に於て八間四方の假小屋を建て彼等へ應接するの準備を爲す翌る十九日午前八時米國軍艦より祝砲各三發放つ使節ペルリ始め上官二十五名水兵百二十人パツテラにて上陸し彼我の使節折衝の上遂に伊豆下田北海道函館肥前の長崎の三港に限り碇泊を許し薪水食糧を給與する事を約す是我國と條約を締結するの嚆矢とす。

●安政二年

此年十月二日夜亥の刻(今の午後十時)頃東國筋大地震あり殊に江戸市中最も甚だしく將軍の居城を始め諸大名旗本の邸宅或は神社佛閣は言ふもさらなり市中民家の倒壊するもの夥しく屋數十萬戸と云ふ一時に三十六ヶ所より出火し忽ち四方へ燃廣がり炎々たる火中に老若男女叫喚の聲は實に酸鼻の至りなり是れが爲に死亡するもの十萬四千人餘とぞ實に非常の震災なり是を世に安政の大地震と云ふ。

●安政三年

此年八月二十五日江戸近傍大暴風雨夜に及んで益々甚だし品川灣より逆浪登り來りて江戸市中の川水大ひに溢れ海岸の民家は言も更なり諸大名の邸に至る迄或は海嘯に流失し或は大風に吹仆され就中水戸家の新造せし軍艦二番の砲臺に當りて破船し其他大小の船舶數千艘行方知れず或は大船の大川筋へ逆流し來りて永代橋を突崩し鐵砲洲佃島濱御殿は大に破損し又築地本願寺の堂宇を仆せり時に死傷十萬餘人あり。

安政四年

七月三日亞米利加合衆國使節ハリス伊豆の下田港に來り條約を締結せんことを迫る續

ひて英露の二國も長崎に來りて條約を締結せんことを求む折柄朝廷にては屢幕府に命を下し外夷を打退くべき旨を申されければ將軍家慶公も大に憂慮せられ内朝廷に應じて外夷を討拂はんやせしが我國力是に堪へず又外國と和親條約を結ばざる違物と云ふて朝命に従はざる罪輕からず殊には海内の志士皆鎖港攘夷を唱へ國論鼎沸が如し將軍家慶公も此内憂外患の爲め痛く心慮を惱まし遂に御不例となる折しも茲に徳川幕府の柱石たる老中阿部伊勢守も亦病に犯され政務を見る事能はずされば徳川幕府は恰も船舶の航海中に橋を折り路行く人の暗夜に燈を失ひたる如く上下心を痛めざるなし是に於て幕府諸大名を集め大評定の結果江州彦根の城主御高三十五萬石井伊掃部頭直弼を大老職に任ず井伊直弼は世界の大勢を察し時勢の變遷を監み朝廷には無斷にて安政五年七月十四日遂に外國と和親條約を締結す世に云ふ安政條約とは是なりされば副將軍たる水戸中納言齊昭卿を始めとし會津桑名仙臺越前等の諸藩士は大に之を反對す殊に水戸中納言は此の如き國の休戚に關する重大の事を副將軍たる余に一言の相談もなく外威に恐れ撞に和親條約を結び朝命を輕んじて徒らに我意を逞ふす此如き者に國政を委任せんこと皇國の存亡も心元なしと考へ秘に家臣鶴飼吉左衛門同幸吉の兩人を京都へ遣し時の傳奏役近衛三條大原諸公の取持を以て外夷打拂ひの勅命を乞ひたり然るに早くも掃部頭は腹心なる長岡主膳妻萩江の兩人の探偵によりて是れを知り台命を以て水戸中納言を駒込に整居させ藤田東湖、吉田松陰、頼三樹三郎、梅田源治郎横井小楠其他勤王の諸氏八十三名を流罪極刑に行ひたり是を安政の大疑獄と云ふ。茲に水藩の浪士佐野竹之助光明、大關和七郎、黒澤忠三郎、蓮田市五郎、齊藤監物周徳、杉山彌一郎、森五六郎、行宗、森山繁之助正徳、稻田重藏、廣岡學十郎、山口辰之助、鯉淵要人、廣木松之助、岡部三十郎、關鐵之助、増子金八郎、海保嵯峨之助等憂國の志士十八名富津の港に會合し舟に乗じて品川に着し思ひ／＼に潜伏し隔日毎

に所を定め集會し大老暗殺の手段を謀り茲に又薩州の浪士有村治左衛門なる者あり父を準人と云ひ兄を雄之介と呼び何れも劍道の達人にて佐野金子黒澤の三士と交り深かりければ或日今度の舉を話せしに有村殊の外喜び竟に其黨に加わりたり斯くて浪士等は襲撃の手策も定まりしかば時は三月二日早天品川川崎樓に會し終日酒宴を催し明日の手配りを定め翌三月三日の未明芝愛宕山に再會し夫より井伊掃部頭の登城を襲はんと各赤合羽を着し供廻りの姿に出立ち櫻田御門外に至りて今や遲しと待ち構へたり此日や天も志士等の志を憐みてか白雪皚々として鷺毛を飛し一寸先も見分け難き程なれば屈強の日和なり井伊掃部頭の供廻には名越源次、日下部内記草刈鐵五郎を初め二百三十餘人積れる雪を踏み分けて櫻田御門へ入らんとする時村治左衛門突然先供へ斬入りければソハ狼藉と呼はる間に此時早く乗物の邊りに一人顯れ御願の筋ありとて乗物に近付くよと見へしが願書と見せし一通の中に仕込し種ヶ島乗物の内へ打込たり之を合圖に八方より十八人の浪士切つて出しかば供廻りの者合羽を脱ぎ柄袋をはづす杯あわてふためく其暇に有村治左衛門等掃部頭を駕籠より引出し難なく首級を擧げたりける其折佐野竹之助が着せし襦袢に朱字にて「敷島の錦の御旗さげもち皇御陣の魁やせむ」櫻田の花とかばねは散すともなどいたむべき日本魂」又薩藩士有村治左衛門が所持の胸亂の裡に「君がため身をつくしつゝますら男が名を揚んとて明をこそまつ」君がためつくす心は武藏野の野邊の草葉の露となるとも」巖をも砕かさらめや武士の國治まれと打込し太刀」と有しと云ふ是れ萬延元庚申年三月三日の出來事なり。

●文久元年 此年五月芝高輪東禪寺英吉利公使旅館へ浪士打入 英人二名を傷く十一月天皇の御妹和宮關東へ御下向將軍家へ御入内此年初めて外國に使節を遣はる。

●文久二年 此年五月五日閣老安藤對馬守坂下門に於て浪士の襲撃を受く是より先幕府に於ては溝口謙岐守、赤松左衛門尉、酒井謙岐守、松平石見守、堀織部正其他三名を撰み外國奉行とす然るに堀織部正は性剛直

なりければ外國人の驕慢にして我國人を蔑視するを惡み我此職にある間は國辱になるべき事は命に換へても抗辯し國威を失墜せしめじと決心したりければ平常の應接にも自然權威の現れければ此人ばかりは外人も輕蔑はせざりしとぞ然るに此頃安藤閣老は外國人の望みに任せ品川御殿山に一萬坪の地所を貸與へ商館を設けさせんと爲せしかば織部正は抗辯し抑も品川は江戸の咽喉夫に連る八ツ山は最大の要地たりそれを彼に與へんは後害必ずあるべき旨辭を盡して論せしかば安藤閣老に怒り織部正を幽閉したり織部正は憤激に堪へず割腹なして相果たりされば織部正の家臣三島三郎兵衛は主君の憤死は閣老安藤の爲す所爲なり唯に私怨のみならず上朝廷を蔑視して攘に外國人に諂諛なし國を誤る逆賊と同憂の浪士豊原邦之助、細谷忠助、吉野政助、相馬仙之助、内田萬之助等と共に安藤侯の登城のをり坂下門外にて要撃す安藤侯の家臣等はスワ狼藉と拔連れて暫く之を防ぐ間に安藤侯は駕籠を出て逃れ去らんとせしかば三島三郎兵衛は屹と見て主君の仇國の讐怨の及受けて見よと安藤侯の肩先へ切りつけたり早くも安藤侯の家臣は馳付け其間を支えしかば其隙に侯には坂下門外に逃込みたり浪士等は望みを失ひ多くは討死なせしとぞ五月英國公使より幕府へ書を出し小笠原島は日本國の所有に非ず彼島英國の管轄なる由談判ありければ幕府に於ては彼島は昨年十二月水野筑前守を彼島に遣し實地に取調せし處既に三百年以前我國人小笠原貞頼の發見に係り其頃の舊記及び我國民渡來して伊勢太神の神祠をも造營なし置きし事等を詳らかにする證據を上げて答へしかば英人も言句につまり其後は何等の談判もなしと云ふ然るに松平丹波守家臣伊東軍兵衛之を聞き英國人の狡黠を憤り芝高輪東禪寺なる英國人旅館に忍び入り英人二名を殺害し己れも割腹なせしとぞ。

●文久三年

此年三月島津侯は江戸を立ち歸國なさんと武州生麥村に到りし時英國人三名馬上にて馳來り忽ち島津侯の行列を横切りしかば家臣の面々何條之を打捨て置き直ちに切て捨てたりけりされば英國政府は

幕府に迫り談判甚だ嚴しかりければ幕府は償金五十萬兩を出して之を謝す薩摩にては英人必ず來襲あるべしと兵備をなして待ちけるに翌年六月二十八日茨軍艦大小七隻鹿兒島灣に入り來り昨年生麥の譴問に及び三萬兩の償ひ金を出せと談判ありしかば諸侯の供先を横切る無禮者は誅伐なすは我國の掟なりと抗辯せしかば遂に談判破裂して七月二日戰爭を開始したり折柄兩風烈しくして船の進退自由ならず是なん天の祐けなりと薩摩軍人は勇み立ち豫て設けし臺場より軍艦目掛け打出したり爲に英艦損傷し死傷の者も尠ならず其折英國の一艦は錠を揚ぐる暇もなく鎖を切て逃げ去りぬ借て英艦は再舉して再び鹿兒島に襲撃の風説ありしかば薩主は三萬兩を幕府より借り之を英國に提供し事済と相成りたり此年文久通寶を鑄る文字は水戸の烈公、小笠原圖書頭及び松平春嶽公の筆なり江戸城の本丸焼ける

●元治元年

長藩屢々攘夷の親征を促がし浪士等又大和に行幸あらん事を請ふ朝議之を容れしに廷臣の内之を拒むものありしかば長藩の親兵を停め罪を三條、東久世、壬生、四條、錦小路、澤等の七卿に歸し其職を免す長藩兵を收めて國に歸る七卿も又竊かに長州に下る世に是を長州七卿落と云ふ長藩の主君側を清むるを名として福原越後を將とし兵を京都に入る會津桑名の兵拒ぎ戦ふて之を取る是に於て朝廷長藩主毛利敬親父子の官爵を削り將軍家茂に追討を命ず家茂は徳川慶勝を總督となし西南諸藩の兵を發して長門の國境を襲ふ敬親は其重臣福原越後等の首謀を斬り其罪を謝す諸軍兵を解て歸る長藩の傑士高杉晋作之を憤り其黨を集め萩城を襲ひ其主敬親父子を奉じて山口による始め薩長二藩の間に隙ありしが西郷隆盛使を桂小五郎に遣わし兩藩合同して幕府を滅ぼさん事を謀り兩藩の約成るに至るも幕府之を覺らす再び征長の師を發して其境土を襲ふ連戦利あらず七月家茂薨す即ち詔して征長の兵を止め慶喜卿をして將軍の職に就かしむ征長の師竟に功なきより幕府の權威日に衰へ天下の諸侯離反するもの多し、此年八月長州の軍勢既に濱田の城を攻め落し續いて豊前小倉を攻む關東勢

慶應元年 六月大和に天誅組の亂あり是は三河の人松本衝等中山忠光卿を奉じて吉野に兵を擧げ天誅

慶應元年

組と稱し大和に入り五條の代官鈴木源内を殺し其民を諭すに親征討幕の意を以てし進んで高取城を圍む城將植

慶應二年

九月一橋中納言慶喜公徳川家を相續す十月九日孝明天皇崩御あらせらる此年幕府佛蘭西人

慶應二年

二月十三日明治天皇御年十六歳にて御踐祚あらせらる頻年起り來れる内憂外患の爲に幕

府の權威日々に衰へ諸國の志士鎖港攘夷を唱ふるもの何時とはなしに尊王討幕の説に變し皇室を戴き政令一出

慶應四年

此年正月十七日伏見鳥羽の戦ひあり是よりさき會津桑名の諸藩士大阪城に來り徳川慶喜公

慶應四年

に説ひて曰く薩長の士幼沖の天子を擁して己を謀る爲に徳川家の誠意通せず其だ遺憾なり宜しく上洛の上陸下の

御前に於て誠意を披歴せられ且つ君側を消められよと慶喜公意を決し會桑二藩の兵を前驅とし高松濱田諸藩の兵

を應援とし北上す其兵三萬伏見鳥羽の兩道より進む事京都に聞ゆ乃ち薩長二藩亦兵を發し兩道を成らしむ遂に戰
端を開き連戦四日に渡り幕軍大敗して大坂に退く慶喜公は志事と共に差ひ大坂に止まるの不利なるを知りしか
ば天保山沖より軍艦回陽丸に打乗り江戸に歸る此時朝廷にては慶喜以下二十七名の官爵を褫ぎ入京を禁じ罪を
天下に告ぐ●二月七日外國事務取調掛 東久世通禧兵庫に各國公使と會見し大政復古の國書を與ふ越て三月二十
三日英佛蘭魯米各國の公使に謁見を賜ふ●四月六日五箇條の御誓文を發布し賜ふ明治天皇には恐れ多くも四月五
日を以て公卿諸侯を率ひ南殿に出御在し自ら天神地祇を祭り五事を誓約し玉ふ曰く廣く會議を興し萬機公
論に決せしむ曰く上下心を一にし盛んに經綸を行はん曰く官武一途庶民に至る迄各々志を遂げ人心を倦まざら
しむ曰く舊來の陋習を破り天地公道に基かむ曰く智識を世界に求め大に皇基を振起すべし衆亦此趣旨に基き協心
努力せよ●茲に徳川慶喜公既に大政を奉還せしかば幕府譜代の諸藩之に不平を唱へ慶喜公を勸めて兵を率ひて
京師に入らんとせしかば伏見鳥羽の戦ひ敗れ薩長の諸藩益々專横を極めしかば愈々憤懣に堪へず奥羽の諸藩連合
結託して王師に抗せん事を謀る會津公之が首魁たり是より先三月三日有栖川熾仁親王を征東大總督とし東海東山
北陸の三道に先鋒總督兼巡撫使を發せしむ大總督既に駿府に至る東山東海の先鋒總督亦碓氷、函根に及ぶ是に於
て慶喜公は東叡山寛永寺に蟄居し其臣山岡鐵太郎を使はす鐵太郎は單騎函根に至り西郷吉之助に對面し能く慶喜
公の恭順 謹慎の意を告げ哀を乞ふ西郷諾して返す官軍進んで品川宿に至る勝義邦及び大久保忠寛再び來りて慶
喜公恭順の意を告げ徒らに戰端を開き江戸數百萬の市民に慘禍を蒙らしむることなき様哀請せしかば約するに五
事を以てす曰く慶喜を水戸へ幽閉すべし、二江戸城を收むべし、三軍艦銃砲を收むべし、四家臣を退くべし、五
家臣入犯の謀に與るものを處分すべしと是に於て慶喜公江戸城を退去し常陸の水戸に移る慶喜公東叡山寛永寺
に蟄居せし時の歌に「君がため民のためとてしばし身を忍ケ岡に墨染の袖」と其胸中察すべし●官軍進んで東北

に至る會津侯若松城に據り之を拒ぎ惡戰苦闘矢玉盡き刀鎗折れ遂に九月に至り城主松平容保降を乞ふ續て仙臺南部、莊内の諸藩も亦降り十一月八日に至り完く平定す●二月十七日徳川の家臣後藤鐵治郎、澁澤誠一郎、菅沼三五郎、天野八郎等池田大隅守を頭として輪王寺宮現法親王を擁して上野東叡山に據り同志の士を募り彰義隊と號し氣勢甚だ盛んなりければ官軍の軍務長大村益次郎には捨置き難しと五月十五日の早朝より東叡山に攻寄たりされば黒門口の隊長松平太郎は木下七郎、寺澤親之助、酒井幸助、天野八郎等の入々として山王臺に至り大砲を構へ寄來る官軍を眼下に見下し砲撃す官軍はがんなべ松源等の二階より發砲し大砲は湯島天神境内或は廣小路松坂屋の邊に据へて山内目掛けて撃込み上野方よりは焼丸數發を打出して町家へ放火し以て寄手を惱まさんとすれども雨の爲に彈丸濕りて其甲斐なし官軍の寄手は二萬餘人一途にとつと攻立たりされど上野方は皆是決死の者のみにて怯れて人に笑われんより死して芳しき名を遺さんと必死と茲に防ぎければ官軍も容易く進むとならざりし中に黒門口の戦ひ尤も烈しく薩軍の隊長篠原國幹自ら陣頭に進み兵士に命じて吉祥閣に火を放ちければさしも壯嚴を極めたる七堂の大伽藍も紅蓮の焰炎々と燃上りたれば寄手は之に勢ひ付益々烈しく攻立たり上野方は酒井を始め勇士の面々或は討れ或は傷き防ぎ戦ふ手策もつき右往左往に敗北し官兵は潮の寄する如く門内に亂入す天野新井の兩士も此體を見て味方の運も是迄なり斯なる上は宮の御身の上进心なし御先途見届け奉らんと兩人共に山内を遁れ根岸の里に至りしに簑笠に身を隠し落行く二人の僧を見掛しかば近付て之を見るに紛れもなき輪王寺宮にて今一人は竹林僧正にてありしかば兩人は一度は安堵の思ひをなすとも身に竹の圍生の御身にして一品親王と申上げ昨日までは錦襦袢の袈裟珠玉の念珠壯嚴の堂上におわせし身が今は墨染の衣を御身に纏ひ賤の男の穿く草鞋さへ御足に穿たせられしかば餘りのおいたわしさに兩人共暫し涙にかきくれしが免すの間も心配なれば天野は竹林僧正に向ひ是より何處へ落させ給ふにやと問ければ僧正はされば一先奥州へ御供仕らんと存す

るなりと答へければ天野は是を聞きて其儀至御極尤らにて候されば我等兩人も御供仕らんと云ふを僧正は押止め餘り人数の多きは却て人目に付やすければ其儀は思ひ止まれよと涙と共に惜き袂を分ちたり宮は其夜三河島のさる方に御一泊の上奥州へ御下降ありしと云ふ●閏四月新に紙幣を製し通用十三年限りとす●越後口の官軍長岡城を落し進んで棚倉磐城平の二城を取る●仁和寺宮征討總督と成りて奥州に進み二本松三春の二城を落す●又藤川氏の臣榎本釜次郎、大島圭介等軍艦八艘を率ひ品川灣を脱走し北海道に航す奥羽の戦争起るや之に應せんことを欲し函館に據り江差、福山を陥る官軍海陸二軍を併して之を討ち江差、福山を復して函館灣中に戦ふ榎本等の兵五稜閣に據り死を以て之を守る官軍進んで之に迫り遂に陥る官軍の將黒田清隆賊寨に至り榎本等を論し降参せしむ是にて海内皆平定せり●七月江戸を改めて東京府を置く時に落首あり「東京府きやうをぬければ豆腐なかしぼり取上げからとなるなり」●十月十一日明治天皇即位の大禮を行ふ天下に大赦を布告す●九月八日元を明治と改め一世一元の制を定めらる●十一月廿六日車駕東幸し西丸に入る江戸城を改めて東京城と稱す是より永く宮城と定めらる時に市民に酒饌を賜はる市中大に賑ふ此時の落首に「土産物にするめ一把に酒三合きようど狐にだまされた江戸」

明治二年

此年正月賀年として西國邊の諸侯悉く参内す●横井參興暗殺におふ薩州長州土州をはじめ其他の諸侯も藩藉を返上す●瑞典那威並びに西班牙國と條約を結ぶ●七月東京京都大阪に府廳を置き他の國々に縣廳を置く此時は七十二縣なりしが後四十二縣に改む●九月京都三條通りに於て兵部大輔大村益次郎刺客平野の爲に殺さる是は大村氏廢刀令の主論者故武士の魂たる刀を廢されては一身が立ぬと終に此舉に及びしなり其折大村益次郎の辭世に「討たるゝも討身も共にあはれなり同じ皇國の人と思へば」●十一月東京横濱間に始めて電信機を架設す●十二月格別の思召しを以て會津米澤以下二十三藩主の死一等をなだめらる●此月諸官省門

前の松飾りを手輕に致すべき旨違あり●九段坂上へ招魂社を立つ靖國神社と號す戦死者軍人の偉功者の靈魂を祭る。

明治三年

此年三月創めて人力車を造る和泉要助、高山幸助、鈴木徳次郎三氏の發明なり後に青山善光寺境内に人力車紀念碑を建て三士の徳稱す●參議副島種臣外務少丞田邊太一の兩君魯國ボシエツト灣に行き樺太の堺を談判す●六月大穢の皇國神祇の大典を再興し全國一般に修行する事になれり●七月亞米利加の川蒸汽船鐵砲洲にて破裂し死者八十四人怪我人五十九人あり●八月舊公卿大名を華族とし其等の家來を士族とし農工商の三民を平民とし苗字を許さる●東京より長崎迄電信線架設工事に着手す●十二月郵便法を始む●賣藥取締規則定まる●此年鹿合羽を着るもの又は散髪頭の者ちらほら見ゆ。

明治四年

此年正月廣澤參議眞臣の屋敷に兇徒忍び入り公を殺害なして逃去る●新貨幣鑄造につき金銀銅の三品の賣買を許され銅に限り五分税にて外國へ輸出を許さる●華族より平民に至る迄相互に婚姻する事許し戸長へ届出れば別段願ふに及ばず●斷髮脱刀隨意の令出づ地方によりては強制的に散髪にならしむ中にはチヨン髻を切るを厭ひ山奥の親類などへ逃げ匿れしたるもの間々ある●島木に行はれし死骸といへども今より後斬罪絞罪同様親族の者引取を願ふ時は下渡される事に定まる●陸軍の旗章を定む●平民に襦高背割羽織を許さる●九月官員の藏祿を月給に改む●九月九日より舊本丸跡にて正午十二時に號砲を放つ●穢多非人の稱を廢して平民と爲すされど新たに平民となりし故に人呼んで新平民と云ふ此時の調査に穢多の數二十八萬五千五百一十一人非人の數二萬三千四百八十人皮作雜種の數七萬九千〇九十五人●府下取締として選卒三千人を置く●琉球國王尙泰を華族となし金銀貨幣三萬圓を賜ふ。

明治五年

此年年期奉公人規則を定め●榎本武揚の建言に依り娼妓を解放す●魯國の皇太子來る●二月二十八日東京横濱間に鐵道敷設工事を起し同年九月開通をげふ明治天皇御臨幸ありたり●十月會津の人渡邊佛輔信濃越後の士民を煽動して徳川幕府回復と號し旗を押立新瀉縣廳に迫り官吏を殺害す因て兵を發し之を討ち渡邊等を捕へて斬に處す次で又山梨縣に暴民二千八百人租税の事より暴動を起し縣廳を破壊す依て上田分營の兵を遣し之を討ち其謀者以下十數人を斬に處す之を大小切と云ふ●此年詔書を以て徵兵令を布き兵を全國の壯年より徵す其布告に「人たる者元より心力を盡し國に報せざるべからず西人之を稱して血税と云ふ其生血を以て國に報するの謂なり」と文中血税の文字ある爲め人民誤解して生血を絞り取ると思ひ暴動起せし地方あり●十一月九日大陰曆を廢し大陽曆に改め舊曆書中のする中段下段の吉凶を廢して迷信を斷つ此日を以て明治六年一月一日となし一ヶ年三百六十五日と定め四年目毎に一日の閏を置き晝夜を分つて二十四時間とす●神武天皇御即位の年を以て紀元となし改曆に付人日上巳端午七夕重陽の五節句を廢し神武天皇の御即位日及び天長節を祝日と定めらる。

明治六年

此年三府を始め人民輻輳の地にして古來より名所舊跡と稱し是迄多人數遊覽の場所にて前方より高外除地に屬せる分は永く諸人借樂の地となし公園と定むべしとの布告あり始めて上野及び淺草觀音境内を公園と定む●外國人の結婚を許さる●十月廟堂に征韓論起る是より先我國維新の業緒に就くに及び朝廷屢使を韓國に遣し力を外國に致すも韓國我使命を容れず却て其答辭不遜なりしかば天下の志士征韓の論を唱へざるなし殊に在朝の重臣西郷隆盛、江藤新平、後藤象次郎、板垣退助、副島種臣、桐野利秋、篠原國幹等之を主張し三條太政大臣を説き其策を進め議略は決す此時に當り岩倉、木戸、大久保等の諸卿歐洲より歸朝し其不可なるを主張す隆盛、利秋等説の行はれざるを知り職を辭して故郷に歸る後藤、副島、板垣の三參議も各病と稱して職を辭せり●福島鳥取二縣の人民一揆を起す次で平定す●備中國淺口郡柏島村の船乘佐藤利八外三人の者先に臺灣

に漂流し此月歸國す同人等漂流中土人の奪略に逢ひし旨小田原縣より上申せり十月元始祭新年宴會孝明天皇祭紀元節、神武天皇祭、神嘗祭、天長節、新嘗祭を年中の祭日祝日と定め後これに春季皇靈祭を加ふ。

明治七年

此年一月高知縣士族武市熊吉岩倉右大臣を赤坂喰違ひにて要撃せしが果さずして捕へられ後斬に處せらる。二月今より何年何ヶ月と計算年齢用ることを布告す。二月十七日江藤新平、鍋島市之亟、島義勇等二千五百人を従へて佐賀に亂を爲す新任の縣令岩村高俊君熊本の兵を率ゐて之を討つ此時内務卿大久保利通公鎮撫使たり陸軍少將野津鎮雄君を熊本に同少將島尾小彌太君を大阪に同少將山田顯義君を西海道に遣す縣廳にては兵糧竭き縣令高俊等公用の書類を抱て筑後に走る困て東伏見宮嘉彰親王を征討總督に山縣中將伊東少將を參軍に野津少將を參謀長に命じて大軍横濱を發して佐賀を攻む賊將鍋島市之亟を斬る此に於て江藤新平等薩摩に走り西郷陸盛に托らんとす島義勇、副島義高を始め賊將十三名捕へらる新平身を以て免れ宇和島に至る縣吏の捕ふる所となりしも辛うじて又脱れ山中を跋沙して高知に入り板垣、後藤に據らんとして甲の浦にて捕へられ後梟首せらる。四月臺灣を征す是より先琉球人五十名漂流して此島に至る土人之を戮して其肉を咬ふ長崎の漂流民も亦難に逢ふ故に問罪の師を起し海軍中將西郷從道君を臺灣征討都督と爲し兵を率ゐて之を討しむ。十月大久保辦理大臣吉那の北京に至りて臺灣の事件を議す七回約を違へしを以て兵馬に訴へ事を決せん時英公使ウエールス氏二國の間を周旋し遂に清國より五十萬兩の償金を出して和議調ふ十一月廿六日支那より歸る天皇正殿に出御して之を迎へ給ふ。

明治八年

九月我軍艦雲揚艦朝鮮の近海を測量せし江華灣の砲臺より韓兵之を撃つ艦長井上少佐八に怒つて永宗城を取り大砲十二門并に尺鎗刀劍を分取り爰に止ると三日にして本艦に還る次で之を奏上す因海軍中將中牟田庫之助釜山浦に往て在留人民を守る後全權辦理大臣黒田清隆、副役井上馨君を朝鮮に遣し江華灣の暴を咎め爲に仁川釜山浦二港を開き修交を修約せしむ依て朝鮮の帯刀を禁す。樺太島は其土人南方に居るものは日本に屬し北方に居るものは露西亞に屬し其疆界定まらず幕府の時露國と約して難居の地とし爾來紛争絶ゆる事なし因て公使榎本武揚を露國へ派遣し千島諸島を露國より得て樺太と交換す。

明治九年

此年十月廿四日神風連の暴士上野謙吾、加屋齊堅、大野鐵平等亂を起し熊本縣を襲ふ安岡縣令及種田少將を殺す程なく謙吾、鐵平等も死す殘賊小倉秋月に走る秋月の舊藩士之に慶じ賊の勢ひ稍はげしく仍て内務少輔林友幸君、陸軍少將大山巖君を遣して之を鎮めしむ。同二十八日山口縣の賊前原一誠を大將として亂を爲す陸軍少將三浦梧樓を遣はして之を討たしむ一誠等出雲の瓜生港に出づ捕へて之を斬る。此時會津の士族永岡久茂同志を募りて千葉に行き遙かに山口の前原に應せんとし小網町思案橋の便船に乗せんす追跡し來れる警部寺本義久と思案橋の上に闘ふ久茂奮つて義久を殺し永久橋に至つて捕へられ遂に斬に處せらる。十二月三重に百姓一揆あり時に舊桑名の藩士の不平の徒共に暴動して電信を切る、茨城縣にも亦暴動ありされども鎮定す。

明治十年

此年一月西國筋へ御巡幸府縣警部以下官等を定めらる。同月末に三菱の汽船赤龍丸鹿兒島灣に入り彈藥の運送を始めしかば西郷崇拜の薩摩健兒等は俄に騒ぎ立ち汾陽五郎左衛門の宅にて私學校の生徒等打寄て相談なし遂に三十日の夜彈藥製造所を襲ふ。二月十五日西郷陸盛、桐野利秋、篠原國幹等政府に尋問する所ありと稱して兵を率ゐて鹿兒島を出で肥後に進む是より先陸盛等叛を謀るに其軍の名なきに苦み東京より歸省せし中原尙雄を捕へて強て口供を造らせ縣令大山綱良と謀つて上京の途を開かしめ赤龍丸の彈藥を運ぶを掠め遂に其徒二萬五千を率ゐる新政厚徳の旗を立て本營を川尻に置き新政都督征討大元帥西郷陸盛と稱す此時政府に於ては詔し、有栖川熾仁親王を總督に任し陸軍中將山縣有朋并に海軍中將川村純義を參軍に野津、三好の兩少

●參謀に任して之を討し、次で鎮撫使を遣す。賊軍熊本城を圍む。將谷干城能く防守す。小倉の兵も木の葉にて
●皇軍利あらずして軍旗々奪はる。此日吉次越の賊を討て、賊將篠原國幹を殲す。熊本中にては兵糧も竭き守るに
難し。因て奥少佐奮つて一隊を率ゐて突出し、身を棄て、圍を突く。賊軍當るべからず。宇土を棄て走る。官軍始めて熊
に連給す。少將谷干城出て之を迎ふ。城兵の歡聲時を遷せし。云ふ時に官軍水陸並び進み、輔國血戰、凡そ二百餘日
兩軍死傷頗る多く、遂に九月に至り、隆盛等鹿兒島に逃る。官軍追撃して城山に圍む。陸海軍皆來り會す。兵凡そ五萬餘
攻撃二旬に及び、賊兵糧盡き、其月廿四日隆盛以下皆戰死す。此役の戰死六千二百餘人、虜刑せらるるもの凡四萬三千五
百餘人なり。●同廿九日鹿兒島縣令大山綱良長崎にて刑に處せらる。●十月虎列刺病大流行、延て全國中に及ぶ。●八月
始めて内國勸業博覽會を上野に開く。天皇臨幸して開場式を行ふ。

明治十一年

●此年支那飢饉に付日本の有志金を出して米數萬石を買入れ之を惠む。●神田黒門町より出
火して三十六ヶ町戸數四千五百六十一戸焼失。●四月全國中に公益事業を起し、物産繁殖の道を開く。爲新に千二百五
十萬圓の内國債を起す。●五月十四日大久保利通公赤坂喰達ひにて兇殺に逢ふ。此日公には午八時頃太政官へ出仕
の爲馬車に乗じて赤坂御門内紀尾井町へ掛りける折書生體の五六人馬車の前へ立ちふさがり、扱手も見せず馬へ切
付たり。一疋は前足を雜倒され、一疋は重傷を受けて倒れしに、ぞ馬丁の芳松あわやと云ふ間もあらばこそ肩先に一太
刀切り付られしかど、氣丈の芳松一目散に駈出し、分署へ斯くと訴へ出る。馭者の太郎は芳松の切られたるを見てす
事こそ起れりと馬車より飛降りたるを一人の兇徒駈寄てひらめかす。太刀の下に肩先より乳の下まで切下げられて
即死せり。かゝる間に公は馬車より出で、遁れ去んとせられしを兇徒やにはに取圍み思ふ存分切り付て咽喉の右よ
り左へ突貫し、其刀を抜もせず其儘にして立去りたり。此兇變の報知あるや折柄太政官におぼせし陸軍中將西郷從
道公は直に座を立ち馬車に飛乗り、紀尾井町へと駈付しに最早事果てし後に警部巡查の面々が其場の様子を調へ

られ既に檢視も済みたるよしを聞給ひ人々に指圖して公の遺骸を花籃に包み自分の馬車へ助け乗せ共に其車に打
乗りて内務卿の邸へ送られたり。兇徒等は既に本望を達せし故一同袂を列ねて斬奸狀の一通を懷にし宮内省へ自
首したり。是等の徒は石川縣士族島田一郎(三十九)長連豪(十八)松本乙菊(三十四)脇田功一(二十五)村松文一(二
十四)島根縣士族淺井壽篤(二十三)の六人なり。●六月元老院幹事陸奥宗光氏拘留になる。初め氏は西南の役に政府
の兵力恐らくは薩賊を平ぐる能はざるものと思ひ自ら招募したる和歌山の兵を以て土佐の兵と合從し折から京都
の守備薄弱なるを機とし恐れ多くも鳳輦を擁し奉り大臣參議を退け廟堂の樞機を握り然して和を西郷に修め共
に從來の事を謀らんとの隱謀を企て大江卓等諸士と共に密事を謀りしも天下の大勢漸く定まるを以て其隱謀を思
ひ止まり何氣なき體にて元老院へ出頭せられしが豫て拘留せられし大江卓、片岡健吉等の口供より其事顯れ拘留
され吟味の上禁獄五ヶ年に處せらる。●六月春秋二季の皇靈祭を定められ大祭日の内へ加ふ。●西京より聖上并に
皇后宫御還幸になる。●八月廿三日の夜近衛砲兵暴動をなす。此日竹橋内なる近衛砲兵隊の士卒等が一橋門外にて
密かに暴擧の事を議す。折柄内務省十等屬西村織平氏右の密議を聞き竊かに其筋へ密告なせしかば陸軍にては夫々
手配をなし又警視廳にても各大臣の邸宅へ巡查を配置し充分手筈の行届きし事は夢にも知らぬ。近衛砲兵隊は夕
刻より何となく騒々しくなりしかば深草十尉、宇都宮少佐の二氏は種々言葉盡して諭されしかど、猛り立ちし者
共は益々荒立ち銃器を携へ隊伍を組んで午後十一時頃營所の外へ押出す。宇都宮少佐はマテと制止の命を下し押
止めんとせられしを暴徒は怒り口々に殺して仕舞へと銃弾を放ち或は切て掛る程に少佐も今は是迄と是非なく軍
刀拔放ち少時は防ぎ戦ひしが多勢の爲に討死す。斯あるべしと兼てより手配ありし近衛歩兵士官が打テ一の號令に
心得たりと兵卒は筒口揃へて打出す。不意を打たれて暴徒等は周章狼狽大砲を二發放ちて其上に小銃を打出し打て
ま衝けよと騒めく折深澤大尉は大音に静れよと呼はり乍ら勇を振つて暴徒の中へ踊り込み制し廻るを暴徒等は

せんが爲名古屋より大阪に行かん途岐阜に行き中教院の演説會に臨み宴終つて歸らんとするとき面會を求むるものありければ板垣君は何氣なく玄關へ立出し時相原尙文は直に組付き板垣君を刺す其時板垣君は從容として「板垣は死すとも自由は死せず」と大聲に呼はりけり傍にありし内藤魯一君直に尙文を捕つて押へ其筋に差出せり幸に板垣君の疵は微傷なりしは不幸中の幸と云ふべし尙文は元愛知縣の教員にして會て帝政黨の主義を好し自由黨を以て國賊となし板垣君を逆臣と思惟せしなり後名古屋重罪裁判所に於て徒刑に處す天皇板垣退助の負傷を開き西四辻侍従を遣して傷狀を御下問あり御手許金三百圓を賜ふ●六月二十五日新橋日本橋間に始めて鐵道馬車開通す●此年伊藤博文勅命を奉じて憲法取調の爲に渡歐す●七月二十三日夜朝鮮京城の暴民不意に起つて王城を責め我陸軍中尉堀本禮三氏外三名を殺し進んで我公使館を襲ひ民家に火を放つて燒討す花房公使近藤領事以下二十八名辛じて一方を切抜け王城の南大門に至れども堅く閉ちて開かず不得已道を揚華津にどりて仁川に至る又々亂兵の爲に襲はれて山路を溯物浦に脱れ月尾島に渡り舟に乗じて大洋に漂流す會英國の測量船が南陽より來るに逢ひ助けられて長崎に着す我政府にては朝鮮事件の論議あり參謀本部も亦軍略を議す此時我國民朝鮮の事變を聞く均しく四方の志士從軍願ふもの多し榎本中將を清國に駐刷の公使に任じ談判せしむ清國我が要求を承諾し償金五十萬兩を納む●十月日本銀行開業す●此年帝國大學の教授外山正一、井上哲二郎等新體詩を造り始む。

明治十六年

此年維新の元勳たる右大臣岩倉具視公薨す品川海安寺に葬る●四月十六日新聞紙及び出版の二條例を改正し言論の拘束益加はる●六月二十三日福島縣令三島通庸は道路の改修の爲めに收斂せしかば縣民大に反對す縣令怒りて河野廣中始め多くの志士を獄に投ず●七月官報を發行す●此年諸國大に早り續きて雨降らず爲めに農民大に苦しむ●京都北野天滿宮へ五千燈を構ふ。

明治十七年

三月十七日宮中に制度取調局を置き參議伊藤博文其長官を兼ね●六月七日商標條例を發布す●七月七日華族令を定め公侯伯子男の五爵を制定し維新の功臣を華族に任じ新舊華族五百五十人に爵位を授く●九月加波山事件あり自由黨員大井憲太郎氏外二十三名國事犯の疑獄起り大阪裁判所にて吟味の上夫々處刑せらる●十月自由黨政府の壓迫に堪へずして解散す●十二月朝鮮の暴徒蜂起して大臣閔泳羽害せらる國至援を我公使館に乞ふ是に於て代理公使竹添進一郎兵を率ゐて王宮を警衛す清國の兵士暴徒を助けて王宮を攻め又我公使館を襲ふて陸軍大尉磯林真三等三十九人之に死す又我公使館も燒かる公使難を仁川に避け狀を奏せしかば朝廷外務卿井上馨を特派全權大使として清國に遣はし談判せしむ博文天津に於て李鴻章と會見し爾後朝鮮國を獨立國と定め兩國共に守備兵を置かず若し朝鮮に兵を出す時は豫め相通せん事を約し事平定せしは翌年一月なり●十二月判事登用規則を定めらる。

明治十八年

此年二月專賣特許條例を定めらる●五月屯田兵條例を制し民兵を北海道の要地に配す●四月東京に電燈會社起り「エヂソン」式にて十六燭百六十燈を點燈す公衆の需要に應じて點燈せしは之を嚆矢とす●此年官制を改革し舊制を廢し閣及十省を置く宮内、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信、是なり長を大臣とし副を次官とす其上に總理大臣を置く●六月大阪大洪水あり其慘狀言ふべからず人畜の死傷潰家流れ家最も多し又流失の橋梁二十八橋に及ぶ又各地方の水害を蒙りし處も非常に多く爲に堤防の破壊田畑の損失人畜の死傷等夥多なり實に八十年來の水害なりと云ふ。

明治十九年

此年縣令の稱を能め知事と改む又北海道廳を置く●帝國大學令、諸學校令、地方官制發布ありたり●八月英國汽船「ノルマントン」號紀州沖にて沈没し乗客中外國人のみは救助せられ日本人は皆溺死

せしかば國人憤慨する者甚だ多く各新聞も筆を揃へて船長の所爲を攻撃し死者の爲に義捐金を募集す皇我國に於る義捐金募集の始めなり●五月井上外務卿各國と條約改正會議を開始す●長崎に於て清國の水兵亂暴我人民に傷付大に争動す。

明治二十年

此年天皇陛下東海道を経て京都へ御行幸あらせらる●三月十四日海防整備の詔勅下る爲に民間海防費を獻金して位階を賜はる者多し●七月井上外務卿各國に條約改正會議無期延期の旨通牒す是れ昨年の「ノルマントン」事件の爲に國民の排外思想激烈なりし爲なり●八月十九日午後三時日蝕皆既あり此時は東京に於て九分四厘なれば市中漸々暗くなり恰も臘月夜の如く飛鳥なども皆嚇を急げり●八月三十一日 明宮嘉仁親王即ち(今上陛下)立太子の宣下あり●日本赤十字社成立す●十一月十日集會結社を制止す●十二月二十五日保安條例を發布し即日より施行す時の警視總監三島通庸君辛辣の手腕を以て政府反對の志士を帝都三里外に放逐す末廣鐵腸尾崎行雄等皆其禍を蒙むれり

明治二十一年

此年二月廿一日樞密院を設く●大隈重信君新に外務大臣に任じ尋で條約改正に着手す●井上君外務大臣時代より大に歐風を鼓吹し山下町鹿鳴館にては連夜舞踏會を催し上流の紳士淑女皆洋裝して之に參集す爲に何事も歐風を摸し我國の舊俗は往々破壊し去らるこれが反動として國粹保存論起る志賀重昂辰巳小次郎氏等之が首唱たり●五月七日文部省令にて博士號を授與せらる●六月後藤象次郎伯大同團結を起す●此年七月十五日岩代國盤梯山噴火す爲に土砂川流を止めて湖水を爲し人家を埋め人畜の死傷夥多し●十二月東京吾妻橋の鐵橋落成す是より前東京にも鐵橋は二三ありしかど此橋は東都五大橋の一にして其美麗結構當時市中第一なりされは其開通式の當日は近傍數町の間は恰も祭禮の如く立錐の餘地もなかりし

明治二十二年

此年二月十一日紀元節の佳節をトシ帝國憲法を發布せらる實に我國未曾有の大典なれば帝都は申すに及ばず日本全國津々浦々如何なる山間の地と雖も毎戸旭旗球燈を掲げて祝意を表したり殊に東京にては各區競ふて飾り物をなし山車を出す其盛況筆に盡し難し此日陛下には皇后陛下と共に六頭の鳳輦に御同乘遊ばされ青山練兵場に於て親しく觀兵の式ありたり●此大典の當日時の文部大臣森有禮君は憲法發布式に參列せんが爲め今や參内なさんとて玄關迄出られし時西野文太郎の爲に脇腹を刺され遂に薨せらる●東海道鐵道全通す●神宮御遷宮ありたり●熊本縣に大地震あり又大和十津川地方に山崩れあり和歌山縣に水災あり●七月十七日日墨條約八月八日日露新條約成るや反對黨大に奮起し越て十月十八日時の外務大臣大隈重信君馬車を驅りて外務省の門前に至りし時志士來島恒喜が爆裂彈を投せし爲馬車は破碎し重信君は右脚を失ふに至る●十二月十五日青木周藏子代りて外務大臣となる。

明治二十二年

此年士耳古の軍艦紀州沖にて難風に遭ひ沈没す依て乗組員を救助の上我軍艦を以て本國土耳古に送還す●美尾の野に於て陸海軍大演習ありたり●東京上野公園に第三内國勸業博覽會を開く●衆議院議員選舉法施行規則、裁判所構成法等發布せらる●金鷄勳章制定せられ爾後武勳ありし者に授けらる●六月貴族院議員選舉、七月衆議院議員選舉あり●立憲自由黨起る●十月議會召集令發布せらる●十月三十日教育勅語下る實に千古 寶典として臣民の眷々服膺すべきものなり其文は元田永孚起草せられしとぞ左に録す
朕惟フニ我が皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我が臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々其美ヲ濟セルハ此レ我が國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ茲ニ存ス聖臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉已レヲ持シ博愛衆ニ及ボシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進デ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ是ノ如キハ獨リ朕ガ忠良ノ臣民タルノミナラズ又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン斯ノ道ハ實ニ我皇祖皇宗

ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スベキ所之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ之ヲ中外ニ施シテ悖ラズ朕爾臣民ト俱ニ眷々服膺シテ成其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ (廿二年十月二十日 御名御璽)

●十一月二十五日第一帝國議會を東京に開會す貴族院議員は皇族十人公爵十人侯爵二十一人伯爵十五人子爵七十五人男爵二十人勅撰議員六十人各府縣多額納稅者四十五人總て二百五十二人にして伊藤博文議長に任じ東久世通磨副議長に任せらる衆議院議員は各府縣の選舉區より選出せられたるもの凡三百人なり中島信行議長に撰ばれ津田真道副議長に擧らる同廿九日天皇議會に御臨幸ありて開院式を舉行せらる。

明治二十四年

二月三條實美公薨去す侯は維新の元勳にして資性温順 誠に群臣の重望を負ひ永く太政大臣の位につき君國に盡せし事一方ならず明治十八年太政官を廢し内閣總理大臣を置くの時に當り伊藤博文を擧げて總理大臣となし永く顯職に止まりて後進の進路を塞ぐことなく實に國家の柱石なりしが一朝病を得て薨去せしかば明治天皇も殊の外御哀悼遊され朝を廢する事三日に及び正一位を贈られたり ●此年五月露國皇太子ニコラス親王我國へ來る長崎より上陸せられ京都御見物の上東京へ來らんとする途中大津に於て津田三藏の爲に傷つけられ直ちに神戸に碇泊中の露國軍艦に乗せらる爲に我國朝野の驚き一方ならず各團體或は個人より御見舞の電報一萬通以上に及び且つ天皇陛下には御慰問として神戸に行幸あらせられ親しく御見舞ありたり ●五月二十五日青木外務大臣辭職せられ榎本武揚これに代る是れ榎本武揚子は露國に畏敬せられ居ればなり ●十月岐阜大垣名古屋に大地震起る實に古來稀なる震災なり市街の人家は悉く潰れ橋梁 堤防は皆破壊し尋て火災起り人畜の死傷其數幾萬なるを知らず其慘狀譬ふるに物なく實に言語に盡し難し。

明治二十五年

此年三月東京神田猿樂町より出火折柄大風にて遂に鎌倉河岸迄延焼し全燒家屋一萬四千二百餘戸に及び死傷も赤多し ●四月十二日伊藤博文、榎本武揚、後藤象次郎、副島種臣、黒田清隆、寺島宗則、井上毅等條約改正委員に擧らる ●此年下瀬雅允氏有名なる下瀬火藥を發明す ●十月二十一日明治天皇陛下には陸軍特別大演習御舉行の爲め栃木縣へ行幸遊さる其模様を知るさんに 陛下には大元帥の軍服を召させ給ひ正帽し大勳位を大綬にて御佩用遊ばし徳大寺侍從長の御陪乘にて上野發の汽車に召させられ野州宇都宮なる大本營へ御安着在らせらる ●明る二十二日大元帥陛下より南北兩軍へ御下附になりし陸軍大演習の一般方略は左の如し

●仙臺及び其附近にありし北軍は數十隊となり東京に向ひて前進す ●東京附近に集合する南軍は進みて北軍を迎撃せんとす ●廿四日北軍は氏家より益々進軍す宇都宮を侵略せんとするの形勢あり南軍は昨夜來之を迎撃せんため平井出の原に防禦の準備をなし午後一時、戰端を開き非常の激戦あり 統督陛下には午前八時本營より平井出の原に御出馬あらせられ兩軍の戰術、戰略を天覽あり休戦後直ちに兩軍司令官を召させられ今日演習の講評あり畢て御歸營遊されたり。

明治二十六年

此年三月二十日海軍大尉郡司成思君は我が極北千島の占守島に移住し開拓殖民の大事業を起さんと隅田川より鐵舟にて乗出す抑も郡司大尉は靜岡縣の士族にして萬延元年江戸に生る元幸田氏なりしが幼き時出て郡司氏を繼げり(されば文士幸田露伴氏とは兄弟たり) 夫れ北海道千島は我國最北の島嶼にして其數大小三十許りあり其北端なるを占守島と云ひ一章の海水を隔て、魯領のカムサツカと相對す其附近はラツコアットセイ、アザラシ等の生息地として世界有數の地なれども其地寒帯に屬し冬期は海上氷にて閉塞し航海途絶し且つ本土を去る甚だ遠ければ移住するもの更になく殆ど無人島の如ければ遠く米國邊より密獵に來り我軍艦の監視を忍び年々巨額の利を得て歸るもの其數幾千なるを知らず茲に於て郡司大尉は我領地なる此地の天産物を彼の外人に盜み去らるゝを慨き自ら此地に移り住みて一は此の天産物を獲りて國益を計り一は此島を拓きて殖民

せしめ北方の防禦をなさんと茲に七艘の端航を繰し舊海軍の水兵など百餘人の同士を率ひ行程一千九百廿七海里ある北海道千島の占守島へと航したり●六月二十四日福島安正君歸京せらるる君は信州松本の人なり獨逸國伯林府日本公使館府の武官なりしが明治二十五年任滿歸朝するに際し西比利亞地方を單騎遠征せんことを思ひ立ち二十五日二月十一日の紀元節の住辰を以て伯林の都を發したり其時獨逸皇帝は安正君の此行を大に壯とせられ拜謁仰せ付られし上勅語及勳章を賜はりたり是に於て安正君は單騎伯林を發し露都莫須古に入りそれより歐亞の二州に跨がれるウラル山を打越へし時其頂上に打立ちて我ウラルより高きと六尺なりと豪語しつゝ亞細亞の北地西北利亞に入り胡沙吹く風に嘶かせ單騎蹄々浦鹽斯德に至る此行三千八百里拾有七ヶ月四拾八拾餘日を経て六月十二日浦鹽より便船にて東京に着したは實に古今未曾有の遠征なれば東京市民の歡迎は甚だ盛大にして福島君萬歳と稱へたり當今多く歡迎の時何君萬歳など呼ぶとは此時に始まる其以前には民間にて萬歳など呼ぶとはなかりしと云ふ●此年六月下旬彼の有名なる相馬事件は無名な自訴状なるもの檢事局に差出され顯要の地位を占むる人が賄賂を敗め相馬誠胤公を狂人なりと言ひ觸し一室に監禁し利さへ毒殺せしよし記載しありたるが相馬の舊臣錦織剛清は七月十七日岡野寛を代理人と爲し相馬家當主相馬順胤、其生母西山りう、泉田胤正、青田剛三、石川榮昌、遠藤吉方、志賀直道、醫師中井常次郎等を被告人として告發したり是に於て東京地方裁判所は取調の結果一旦不起訴と爲せしかど更に控訴院の命ありて七月二十四日起訴したり八月九月に渡り相馬家の家宅搜索となり中井常次郎の拘留となり引續き西山りう、青田剛三、石川榮昌、遠藤吉方も拘留せらるる數々取調の結果九月八日岡田判事、長森檢事は遂に青山墓地なる相馬誠胤の墳墓を發掘し死體を解剖に付し毒素の有無を調べし結果四十餘日を經たる十月二十四日に至り先に拘留せられたる西山、青田等の人々は盡く免訴放免せられ返て誣告罪として錦織剛清、岡野寛等は拘留せられたり二十五日には判事山口淳十一月十一日には根室地方裁判所判事帆足清萃同十

六日には内務省衛生局長 後藤新平等は續々拘留せられ十二月二十五日に至り豫審終結して其言渡は左の如し

- 誣告 錦織剛清 ● 幫助 辯護士岡野寛 ● 誣告 内務省衛生局長 後藤新平 ● 幫助 洋服商山田重兵衛
- 幫助 剛清妻小山とき ● 收賄詐欺取財 判事山口淳 ● 詐欺取財 判事帆足清萃 ● 收賄 元監獄看守渡邊直賢 ● 偽證 待合香川亭主人加藤あい ● 免訴放免 壯士中田太一郎 ● 同 壯士津田官次郎 ● 同 壯士宮地茂平

● 明治二十七年

此年三月二十五日明治天皇御成婚後滿二十五年に相當するを以て銀婚式の祝典を舉行せらるれば東京市中は舉て此大典を祝さん爲に種々の飾り物或は山車を引出し折柄前日大雪ありしにも係はらず市中股賑を極めたり●四月東京に大地震あり近衛歩兵聯隊の畑出し折れ兵士の死亡あり市中にても各商店など被害少なからざりしが白晝の故に死傷は稀なり●五月朝鮮全羅道に東學黨起り頗る猖獗を極めしかば敵國にては竊に兵を牙山に上陸させ我國には何等の通知もせざりけり然るに我國にては朝鮮の形勢甚だ不穩にして在留の

我國民の安危の程も計り難ければ清國に通知を發し六月六日居留民保護として我軍仁川に上陸す●七月二日に至り朝鮮政府にては日清兩國の公使に向ひ撤兵せん事を要求す●越て七月三日我が大島公使は韓王に謁見し五箇條の改革案を實行せしむ●同十六日我國朝野積年の希望たりし條約改正も緒に就き初めて日英新條約を調印す時の外務大臣は陸奥宗光なり●同十五日大島公使は韓廷の親清派閔泳駿及び清國公使袁世凱に我國に通知なくして敵兵を牙山に上陸させし不徳義を詰問す兩氏何等の辯する事能はず●同十九日大島公使韓廷の反覆常なく我國の恩

憲を忘れ事大主義を取り清國に依らんとするを攻め現行清韓條約の廢棄宣言を迫る●同二十三日大島公使は大院君を擁護し護衛の兵士を率ゐる王城に入らんとする時閔氏の隨兵突然我に發砲す我兵少時應戰して難なく之を退け王城に入り朝鮮王に謁見す王は大に我國の好意を謝せしかば大島公使は宜しく清韓條約を廢棄すべき旨申上しに韓王も承諾せられしかば其旨袁世凱に通知し京城を去らしむ●同二十五日我軍艦吉野、浪速、秋津島の三艦豊島沖に差掛ると遙に煙を揚げて朝鮮さして來る船あり近より見れば黃龍旗を艦頭に翻へし一艘の運送船を三艘の軍艦にて護衛し朝鮮の牙山に至る様見受けたり因て我軍艦は猶も様子を確認んとせし折柄突然我軍艦に向ひ發砲せしかば我軍艦より榴彈を發し敵兵一千有餘人を乗せたる運送船高升號を沈没せしむ是に驚き敵國の濟遠廣乙の二艦は浪を蹴立て、東西に通れたり遅れし敵國軍艦操江號を捕獲なし凱歌を揚げて引取りたり是を日清戰役の發端とす●同七月二十九日には牙山に駐まる敵兵を打拂はんそが爲に松崎大尉は前營を率ゐる安海渡に進軍す折柄敵の打出す彈丸に大尉を始め喇叭手の白石兵士討死すされども我軍奮戰し成敵の敵壘を抜き牙山を追撃す敵兵周章狼狽して軍器銃砲彈藥を打捨て潰走なせしかば我軍之を分捕りたり是を陸戰の始めとす●八月一日我が天皇陛下には宣戰の詔勅を下し玉へり是が爲國民の敵愾心一層振ふ●九月十三日大元帥陛下には御親征在らせらる旨仰せ出され同十五日大鷲を廣島に進めさせ給ふ●九月十六日我第一軍は平壤を攻む此時玄武門に向ひし我兵は勇敢に之を攻むると雖も敵兵堅く門を鎖し推せども突けども開けはこそ頑強に防ぎしかば我兵進み兼たりしが此時原田重吉なる一兵卒身を躍らして敵壘を攀ち登り群る敵中に躍入り當るを幸ひ薙ぎ伏し手早く門に手を掛けて左右に門を推開く進めしと我軍は堰きたる水を落すが如く一度にドット門内に進入せしかば敵兵は一溜りもなく潰走す其他牡丹臺に向ひし比志島支隊其他の我軍力を協せ攻立ければ忽ち平壤は陥落し敵將左寶貴は討死す是より第一軍は鴨綠江を渡り九連城を抜き滿洲へと進軍す●同十七日には我海軍は樺山中將西京丸に坐乗せられ海洋島

沖に於て大海戰あり首尾よく我軍大勝利●十月三日金鵝勳章年金令公布せらる●六日廣島市及び宇品を臨戰地境と定め成嚴令を施行す●十二日大島公使歸朝す井上大臣其後を繼ぐ●同十五日臨時議會を廣島に召集して軍事公債一億五千萬圓を可決す●同月二十四日大山大將の率ゐる第二軍は華國河口に上陸す●同二十六日九連城を占領す●同月三十一日鳳凰城を占領す●十一月六日金州の占領●同月十八日岫巖の占領●同月二十二日清國要塞の地旅順口を占領す●同二十六日デットリング清國の使節として我國馬關に來る我國其の正使に非ざるを以て之を拒絶す不得已廿九日デットリング歸國す●十二月五日復州の占領●同月十二日拆木城の占領●同十三日海城の占領●同月十九日紅瓦塞の大勝利實に皇軍の向ふ處炬火の枯草を燒くが如し●十一月二十二日日米新條約十二月一日日伊新條約調印成る●此年醫學博士北聖柴三郎同青山胤通を香港に遣はし黒死病を研究す。

明治二十八年

此年一月十日蓋平を占領す●同月二十日榮城灣に直ちに上陸して是を占領す●一月二十四日參謀總長有栖川熾仁親王薨す城北染井の塋地に葬る軍國多事の際是計に接し朝野哀悼せざるなし●同月三十日又々清國講和の使節として張蔭桓馬關に來れるも其正使に非ざるを以て之を拒絶す爲に二月四日を以て歸國す●同月三十一日威海衛陥落す是れにて清國渤海灣の兩要塞共に我軍に歸す●二月七日日島の陥落●同月十六日劉公島にある北洋艦隊提督丁汝昌に我が伊東司令長官は降服の勸告状を送り因て丁汝昌は百敗の後力盡きたるの時に當り猶も戦争を繼續せんは徒らに士卒の生命を失ふのみにして何の得る處もなきを考へ艦隊全部を我軍に提供し士卒の生命を救助せん事を懇願せしかば伊東司令官は之を許す丁汝昌は今思ひ置く事更になしと毒を仰いで死したりけり殘る士卒は艦隊を率ゐて我軍に降りしかば伊東司令官は其艦隊兵器を收め降れる士卒は清國に生還せしかば人皆智仁の將と稱賛せざるものなし●同月二十四日大平山の大勝利●三月一日乾線堡の勝利●四日牛莊の占領●六日營口の占領●同月九日田庄臺の占領●同月十九日清國講和使節として李鴻章長州馬關

に來着す我國にては總理大臣伊藤博文外務大臣陸奥宗光を講和談判委員に任じ折衝せしむ●越へて二十一日より講和談判開始す●二十三日澎湖列島陥落す●同月二十四日清國講和使節李鴻章我國の講和委員と會見せん爲め馬關の春帆樓に赴かんす●狂漢小山六之輔なる者路に之を要撃せんと六連のビストルを手にし今哉遲しと待ち居たりそれとは知らぬ李鴻章供人急がせ來たれるを六之輔は距離を計り打て放す彈丸は李鴻章が右頬を傷くスワ一大事と警衛の警官は直に小山を捕て抑へ警察署へ引致す李鴻章は供人に助けられ已れが旅宿に立歸る此旨直に廣島なる 陛下の御許へ電奏せしかば 陛下には長くも佐藤博士を御差遣あり李鴻章の治療をなさしむ且つ無條件にて三週間の休職を許す幸に李鴻章の統も程なく癒え四月十七日を以て遼東半島、臺灣、澎湖列島及 償金を出して講和談判調印成り李鴻章は本國に歸る●四月我軍陸續凱旋す●五月四日露西亞、獨逸、佛蘭西の三國より遼東半島還府の干渉を受け朝野の志士憤慨せしかども政府之を容れて●國に還府す●五月二十九日樺山伯臺灣に渡る●六月二日臺灣授受式ありたり●同月三十日大元帥陛下廣島より凱旋す東京市民の歡迎盛大なり●六月八日日露改正條約調印成る●十月四日朝鮮京城に暴徒起り王妃を殺す三浦公使歸朝を命せられ字品に上陸のところが縛せられ取調の上放免せらる●十一月十一日北白川宮薨す豊島が岡に御葬儀あり後臺灣には臺灣神社として奉祀し奉る●十一月二十二日自由黨政府と提携す。

●明治二十九年

一月臺灣土民蜂起し我軍苦戰遂に之を平定す●三月拓殖務省を設置し高島勲之助君大臣となる●四月自由黨總理板垣退助君召されて内務大臣となる●同伊藤侯爵西郷伯爵兩大臣臺灣を巡視す●六月回歸熱流行す●六月水道不正鐵管事件公判開かる鑛鐵會社重役兩宮敬次郎同社技師野呂博士等拘引せられ公判開廷の結果兩宮敬次郎無罪となり其他罪せられし人々あり●六月十五日岩手、宮城、青森、三縣大海嘯あり折柄舊五月端午の節句の夜なりしかば三陸地方の人々は農業漁業を休み酒酌みかわし歡樂を極めし所突然の大海嘯にて死するもの二萬一千九百九十八人傷者三萬三百九十八人流失家屋八千六百二十六戸潰家七百五十五戸依て赤十字病院より醫員看護婦出張して負傷者を救護す日本全國の各新聞は競ふて義捐金を募集す其金額四十五萬圓に及ぶ●四月四日獨新條約成る●五月帝國公債倫敦市場に上る●七月富山、岐阜、長野、滋賀、埼玉の諸縣に大洪水あり●八月内閣大更迭あり伊藤侯爵板垣伯爵始め諸大臣皆辭職す●越て九月松方正義伯代りて總理大臣となり外務大臣大隈重信君、内務大臣樺山資紀君、陸軍大臣高島勲之助君、海軍大臣西郷從道君、逓信大臣野村靖君、文部大臣蜂須賀茂昭君、司法大臣清浦圭吾君、農商務大臣榎本式揚君、大藏大臣松方正義君之を兼ね●此年日本郵船會社は歐洲、米國、漳州航路を開く●全國に十三師團を置く。

●明治三十年

此年一月十一日英照皇太后陛下御崩御遊さる爲に鳴物御停止仰出さる●三月金貨本位制を採用し新たに五圓十圓二十圓の金貨を鑄造す●三月二十三日足尾銅毒事件に關し渡良瀬川沿岸の人民中央政府へ請願せんと一萬有餘の人民決死願意を買ぬかんと上京す沿道の警察署にては憲兵の力を籍り各所の橋を徹して之を防止す物情騒然たり然れども遂に四百名の農民上京す●四月八王子に大火あり全燒五千二百燒死人四十人及ぶ●五月京都帝國大學を新設す●七月三十一日奥州鐵道、澤線第十三號隊道工事終らんとして工夫工女二十一名土中に埋めらる●八月三日村井兄弟商會東京室町支店にてバアヂンと云ふ紙巻煙草の福引景品付の賣出しありしが其間に不正ありしとて群集の爲に破壊せらる●同月十日兩國川開きを舉行す其夜群集の爲に兩國橋の欄干數間落ちて數多の死傷者を出せり●飯田町の細民蜂起し警察署を破壊す●十一月深川永代橋鐵橋となり開通式を舉行す●新潟縣北越鐵道龍ヶ崎停車場に於て爆烈輛の騒動越る●十一月二十日北海道根室に大火あり全燒六百二十三戸●十二月二十五日衆議院内閣不信任を決議せんとし解散せらる●此年五月逓信行電氣試驗長淺野應助氏無線電信を發明す是より先二十九年七月頃伊太利人マルコニ一氏所謂マルコニ一式無線電信を發明せしが我國

にては別に淺野氏の聲明ありたり。

明治三十一年

一月十九日元帥府を置く●六月新潟縣江津驛に大火あり全驛に延焼す●六月十日第十二議會衆議院増税否決の爲解散せらる●此月憲政黨内閣を組織す大隈重信君總理大臣兼内務大臣となる外務大臣板垣退助君、大藏大臣松田正久君、逓信大臣林有造君、司法大臣大東義徳君、文部大臣犬養毅君、農商務大臣大石正己君任命せらる●七月一日民法實施せらる●八月一日長くも皇太子(今上陛下)殿下第二十回の御誕辰に當らせ賜ふを以て宮内大臣始、各大官等、沼津御用邸に御祝電を奉る●九月一日山陽鐵道門司馬關間に接續汽船の航路を開始す●同月十九日上野動物園の狼々宮中に御取寄せ、天皇皇后兩陛下天覽あらせらる●十月二十五日大阪商船會社宮川丸日本郵船會社の金州丸と横岐國多度津沖鷺見島附近にて衝突なし沈没す●同月二十九日板垣内相、林逓相、松田藏相の三自由派大臣は辭表を呈出す●同三十一日大隈首相以下進歩派の大石、大東、犬養の三相引續き辭表を捧呈す●十一月七日第十三議會召集せらる衆議院にては議長に片岡健吉君副議長に元田肇君當選す●陸海二相の外各大臣願に依て本官を免せられ山縣有朋君を首相に其他各大臣任命せらる●十三日東京市廳開、廳式を上野公園にて行ふ●此年伊勢神宮炎上す●此年秋攝河泉の平野に於て大演習御舉行、大元帥陛下には御行幸遊ばされ親しく御統監あらせらる。

明治三十二年

四月新關稅法及商法實施せらる●帝室制度取調局創立す●私立學校令公布せらる●三月和蘭國海牙萬國平和會議に參列員差遣せらる●七月十七日改正條約實施せらる是より内地雜居始まる●八月十二日富山縣富山市に大火ありて五千餘戸焼失す●同月十二日神奈川縣横濱に大火あり三千二百〇八戸焼失す●實に同地開港以來の大火なり●十月七日日本鐵道栃木縣矢板停車場を發せし汽車常川の鐵橋に差掛るや暴風の爲に顛覆し死傷十數人ありたり●同日東海道鈴川附近は暴風に爲に海嘯押寄せ田子の浦にて人家百二十九戸流失し

死亡二十七名行衛不明の者四十四名重傷者四十六名輕傷者數百人に及べり●鈴川にては別莊民家の流失三十餘戸停車場附近に亘りて富士郡一圓海の如く鈴川以東流失家屋三百二十戸行衛不明の者五十餘名大破損百三十餘戸浸水家屋五百餘戸田畑浸水六百餘町歩汽船破損六百三十艘なり。

明治三十三年

五月十日皇太子嘉仁親王殿下(今上陛下)には九條節子姫と御成婚あらせらる●五月三十日清國に義和團排外の目的にて暴動を起し我が居留地始め各國居留地其慘害を蒙り勢ひ猖獗を極め遂に我公使館を燒かんとす是に於て公使西德次郎君は駐在歩官柴中佐、原、安藤、森田の三大尉と謀議の結果老幼婦女は皆公使館に集め居留民中六十人を選び義勇兵を組織し以て公使館を防守す時に天津に碇泊中の各國軍艦は陸戰隊を組織し英國海軍中將シーモア氏を司令官とし聯合軍を編成し北京に於ける各國居留民を救はんとす其報北京に達せしかば杉山書記官は公使代理として出迎ひせんとする途中國匪の爲に慘殺せられ敢なき最後を遂げられたり其折獨逸の公使も亦團匪の爲めに殺されたり斯の如き有様なれば各國聯合軍も今は一刻も猶豫なり難しと英露、獨、佛の陸戰隊を先陣とし日、米、伊、埃の諸兵後陣たり元より聯合軍の事なれば何れの國の兵士とて怯れて他兵に笑はれなと口にはねど心にはたがいに競ふ念はあり殊に白哲人種の内東洋人は日本のみされば我兵士等は各國視線の面前にて目覺しき働きな先頭第一に日章旗を北京城頭に翻さんと心は矢竹にはやれども先陣なる英、露、獨、佛の諸兵を差置き前進もなりがたく皮肉の嘆を洩せる折柄敵は太沽の砲臺より打下す彈丸は雨か霞の如くなれば流石に強國の英、露、獨、佛の諸兵士も陣形を亂し進み兼たる有様に我が白石大尉は大に喜び日頃鍛へし日本の武勇を示すは此時と軍刀引抜き我軍に進めんと下知をなす森澤大尉は大聲に列國遠視の其中ぞ縱令中隊全滅すとも一步も退くとなかれと呼ばれば何條怯るものあるべき日本男子の腕前を是れ見よ計りに飛びくる彈丸事ともせず突貫なせしかば敵兵是に氣を奪はれ聊かひるむ其ひまに白石大尉は身を躍らし太沽

砲臺の其上に日章旗を翻へせしかば續いて我兵皆登り向ひし敵を打ち殺し首尾よく砲臺を占領し先頭第一の月桂冠は實に我軍の名譽なりされど此戦ひに服部中佐を始めとし山下特務曹長は敵彈の爲に討死す茲に尤も感すべきは服部中佐の婦人にもと子と云へる婦人あり良人出軍の其折に健氣の言葉に良人を勵まし又山下特務曹長の夫人初子と云へるは手紙を以て夫を勵まし又天津の領事なる鄭氏の令室濱子夫人は斯かる事變の時に際し從容として夫を助け居留民の保護に任じ男子も及ばぬ壯烈の働き又國華新聞社長西村寛助君艱苦を忍び敵狀を探り味方の爲に盡せしなど縦合ひ其身は軍人に非ざるとも一朝事ある時に當りては身命を擲つて皇國の爲に盡さんとするは是れ日本魂の致す所にして實に我國の精華なり●是より先七月六日清國皇帝より我國へ至急扶助を乞ふの親電ありしかば第五師團の渡清となり八月十四日を以て各國聯合軍に先ちて北京に進入し各國公使始め在留外人を救ふ●九月立憲政友會成り伊藤博文總裁となる●十月政友會内閣を組織す總理大臣伊藤博文、外務大臣加藤高明、内務大臣末松謙澄、大藏大臣渡邊國武、陸軍大臣桂太郎、海軍大臣山本權兵衛、文部大臣松田正久、農商務大臣林有造、司法大臣金子堅太郎、逓信大臣星亨なり●成瀬仁藏目白臺に女子大學を設立す

明治三十四年

此年四月二十九日皇孫迪宮御誕生遊され御名を裕仁親王と申上げ奉る●五月五日政友會内閣辭職し桂内閣之に代る總理大臣桂太郎、外務大臣小村壽太郎、内務大臣内海忠勝、大藏大臣曾禰荒助陸軍大臣寺内正毅、海軍大臣山本權兵衛、司法大臣清浦圭吉、文部大臣菊地大麓、農商務大臣平田東助、逓信大臣芳川顯正●北清征討軍第五師團凱旋す我國軍隊の強兵にして侮るへからざるを世界各國に示せしは日清日露の兩役よりも寧ろ北清事件にありとす●六月劍客伊庭想太郎東京市會議事堂に於て星亨を刺殺す●九月伊勢神宮御遷營成り御遷宮ありたり●此年相州久里濱にペルリ上陸紀念碑立つ日米協會是が主唱者たり其除幕式には日米の名士大に集り甚だ盛大なり嘉永六年ペルリ渡來の時より今年に至る五十年●此年東北大演習、大元帥陛下行幸

親しく御統監遊さる●世に明治の佐倉宗五郎と稱せられたる田中正造氏も例の鑛毒事件の爲屢議會に於て論せしも議容れられず又渡良瀬沿岸の住民も屢要路に嘆願に及ぶと雖も其願意採用せられず流石の田中も斯くなる上は陛下に直訴するに如かず●陛下行幸の折を伺ひ鳳輦に近づき直訴せんとし警官の爲に抑へらる●此年始めて横濱「ブルル」商會にて自動車輸入し我國にて乗り始む東京にて三十六年に至り三井呉服店にて用ひ始む

明治三十五年

此年一月三十日日英同盟成り二月十二日同盟條約公布せらる市中國旗球燈を換げて祝意を表す●青森第五聯隊八甲田山に雪中行軍を爲し二百餘人凍死せり●義士四十七士二百年祭を執行し芝高輪泉岳寺殊の外賑ふ●菅公一千年祭を京都北野、筑前大宰府始め各所の天滿宮にて執行す●六月二十五日第二皇孫淳宮雍仁親王殿下御誕生遊さる●十二月九日第十七議會召集せらる改正選舉法により大選舉區單記無記名投票を以て選出されしものなり●同月二十八日豫算歳入問題に關し解散を命ぜらる

明治三十六年

此年大坂に第五回内國勸業博覽會を開く●四月淺草觀世開帳す老若男女參詣の者群集す●此年東京馬車鐵道會社は鐵道馬車を電車に改め先づ新橋品川間を開通す又兩宮敬次郎等の經營せる市街鐵道會社は數寄屋橋より神田橋迄電車を施設す●七月伊藤博文政友會を捨て樞密院に入る●東京日比谷公園落成す其廣宏にして花木水石の珍模範的と稱す●九月露兵滿州撤兵事件起る次せ東京に日露交渉談判を開始す是より日露の關係漸く急なり

明治三十七年

此年二月六日日露外交關係斷絶し時の外務大臣小村壽太郎君は露國公使「ローゼン」男爵に向つて自今自由行動を取ることを通牒せり是に於て海軍大將東郷平八郎は四艦隊を引率し船艦相觸んで佐世保を發す●同月八日駐露公使栗野君露都を引揚ぐ●此日東郷艦隊は第一回旅順攻撃を開始す敵國レトウキーザン及びアスコールドを轟沈す●翌九日第四艦隊瓜生海軍中將は我陸軍を無事仁川に上陸せしむ當時敵艦コレ

一ツと撃破しワリヤークを拿捕す●十日宣戦の大詔降り露も亦之れを宣す●十一日紀元節に駐日露公使ローゼビ
 男東京を引揚ぐ朝野の士之を送る、大本營を宮中に置かる●我商船奈古浦丸露國浦羅艦隊の爲め福山沖に轟沈す
 ●十六日英國より購入の日進、春日の二艦無事回航す●廿四日東郷艦隊は第三回旅順攻撃を行ひ鳩灣に敵艦逐艦
 ウスシテリヌイ艦沈し同夜七十餘人の決死隊により旅順水道を閉塞す使用船大津丸報國丸武州丸武陽丸仁川
 丸の老朽船なり●二十八日平壤城外七星門に於て始めて彼我斥候陸戦あり●三月廿七日東郷艦隊は第六回旅順
 攻撃と決死隊閉塞を行ひ汽船福井、米山、千代、彌彦の四隻を以て港口を塞ぎ歸還に際し福井丸の指揮官廣瀬武
 夫海軍中佐は部下杉野兵曹長を搜索中共に敵の十字砲火に戦死す後帝都須田町に兩人の銅像を建つ●廿八日陸軍
 定州城を占領す●四月十三日第七回旅順攻撃を爲す敵艦艦ペトロパウロスク我施設水雷に觸れ沈没す敵の提督マ
 カロフ將軍は艦と共に殉す世界の名戦術家なり先きに我東郷大將の戦術を感嘆し倒感状を送り越し敬意を表した
 り●五月一日第一軍は九連城を占領す●五日第二軍遼東半島に上陸す●六日鳳凰城七日寛甸城及普蘭店を占領し
 旅順を推塞す●八日東京市民は祝捷會を開催す●十二日雪裡站十七日三十里堡、八庄里、陳家屯を占領し●十
 九日第三軍大孤山に上陸す●廿六日第二陸及海軍共 同 金山州及南山を攻略し廿七日南關嶺、柳樹屯、六月十二日
 懷仁縣十五日得利寺の激戦は敵一萬我死傷九百に餘り共に占領す●廿二日參謀總長大山巖は滿州軍總司令官に同
 次長兒玉源太郎は同總參議長に山縣有朋は參謀總長に長岡外史は同次長に任ぜらる●廿一日熊岳城廿七日分水嶺
 を七月二日摩天嶺を占領す●五日第三軍分水嶺にあり敵騎三千我軍を逆襲す我軍迫撃して之れを北方に走らす同
 日我特別任務艦海門號大連灣に執務中濃霧に襲はれ不幸敵の機械水雷に觸沈す●十八日より十九日に亘り細河沿
 を占領す●廿日浦鹽艦隊三隻我が津輕海峡を通過し惠山沖に東京灣漁船會社の高島丸を撃沈せしむ●同日玄海洋
 に於て常陸丸佐渡丸を撃沈す當所は上村艦隊の警備に屬す爲めに上村中將は國民の怨焦となる●廿二日盤嶺通

路を占領し廿三日廿四日に亘り大平嶺、大石嶺を占領し敵軍司令官クロバトキン負傷す次で營口を占領す●八
 月三日海城及牛莊を占領す●十四日黎明對島の北方に於て浦鹽艦隊三隻と我が上村艦隊と會合激戦五時間敵艦リ
 ユーリツクを撃沈し二艦を走らす上村艦隊の前復讐戦なり●十六日旅順攻圍軍乃木司令官は參謀山岡少佐を軍使
 として 陛下の聖旨及勅降書ヲ旅順要塞參議に齎す●九月四日遼陽を占領す劇戦四日に亘れるなり●十二月九日
 旅順敵艦隊全滅す。

●明治二十八年

昨年より引き總く旅順攻圍に國民も等しく心配せるに一月一日旅順要塞司令官スタ
 ツセルより乃木司令官旅順 開城を申來る●三日双方の委員協定終り四日我が司令官は陸戦例規第三十五條及平
 和會議の精神に基き亦七十年後其他の戦役の於ける慣例を重んずべき 聖旨により武士名譽保存規定の許に開城
 受授を爲す我が 皇恩の厚きにステツセル始め敵一同涙を以て喜ぶステツセルは愛馬を乃木將軍に贈らる●二月
 十五日奉天總攻撃の準備成る十九日總進軍の命下る夫より毎日士卒勇戦●三月十二日午前三時奉天全占領となる
 敵死傷四萬千二百二十二人捕虜三千五百人●五月廿七日黎明バルチック艦隊廿二隻旅順浦鹽の艦隊に協力せん爲
 めに航行日本海にいる時に我が消艦より「敵艦見ゆ」の信號あり忽ち我旗艦三笠の橋頭高く「皇國の存亡此一戦
 にあり卿等夫れ努力せよ」と信號す我が決死的海軍は對島水道に入れる敵艦廿二隻と玄々相摩し戦闘三日遂に敵
 の沈没艦十五隻分捕四隻餘の三隻は厄く中立地へ遁鼠す敵海兵死傷二五二七人捕虜七〇〇〇人なり●六月九日米
 國大統領ルーズベルト氏世界人道の爲め兩國に講和仲介の發議を通牒す●七月三日外務大臣小村壽太郎君と駐米
 公使高平小五郎君に講和全權委員隨行人員に山座政務局長佐藤辯理公使安達、坂西の兩書記官本多、小西の兩秘書
 官デニソン氏、竹下大佐等仰付けらる一行は同月八日午後一時四十分新橋を發し同四時巨船ミネソダ號に乗じ横
 濱港を解覽す●十九日午後十一時一行は無事タウセンD港検役所に着廿日午前十時シャートル港に入り首府ワシ

ントンに着す翌日會見所たるポーツマスに於て露國全權委員ウイツテ伯及ローゼン男等と會談す●七月九日午後三時四十五分原口中將は樺太南部の要港コルサコフを占領し廿四日午後一時北道艦隊援護の詐に第一アルコフ、ボロスカ、次でアレキサンドロフを占領す●八月十日ポーツマスに於て講和兩國委員の間に平和條約調印成る●十二月二日英新協約調印成る●九月五日午後一時日比谷公園に開かるべき國民大會は事平和條約に關する問題にて特に不穩の兆ありとし今日午四時大會禁止となり茲に電車焼打等の騷擾數日に亘る翌六日東京に戒嚴令を布く發起人たる講和問題聯合同志會委員高橋秀臣は神田署に恒屋盛服は麻布署に松村恒一郎大谷誠夫は赤坂署に細野二郎は日本橋署に各同行遺責を命ぜらる●十三日横濱羽衣座に於て國民大會を開きしに奥野、江間の兩辯士出演せざりしより一大騷擾を起し警戒不能となり宗署長より持田警部に命を傳へて警官拔劍に及び一層市民を激怒せしめ遂に横濱にも焼打事件を生ず●廿五日米國陸軍卿タフト氏ループベルト嬢、外に下院議長軍醫副官秘書官參謀及び上院議員七名下院議員十五名に婦人二十餘名横濱港に來る翌日東京市民同一行を日比谷公園に盛大なる歡迎をなす此日東京市は日米の國旗を交又して祝意を表せり●九月二十六日山梨縣郡内の谷村に於て甲斐絹業者八九百名稅務署に亂入なし器物を破壊し官文書、河中に投じ署員二名を負傷せしめし椿事あり事の次第は此日機業家は早朝より市に出で七時頃に至り八九百名に達したるも稅務官吏出張し來らずして漸くに八時頃になりて出掛けるより待倦みたる大勢は來ようが遅しと苦情を言ひしものあるに稅務吏は貴様等は納稅に來たのぢやないか何を騒ぐのだと叱したるより平素稅務吏の不當の扱をなし居るを心悪く思ひ居る一同は大に怒り一度に沸騰したるより事の茲に及びしなりと云ふ●九月二十九日原口中將凱旋す東京市民同軍隊の爲に上野停車場に於て盛大なる歡迎をなす●十月六日小村全權の隨員山座政務局長及び「デニソン」氏巨船タマコ號に乗じて恙なく歸朝す●同月十二日午前七時四十分英國支那艦隊十二隻劍が崎沖を通過すとの電報あり是より先我同盟國なる英國は我國に

親交の敬意を表する爲同國支那艦隊をして我國を訪問せしむるとの通知ありければ待ち構へたる横濱市民は一切の準備を爲す然る處九時四十分に至り英國支那艦隊は規律正しく單縱陣をなし入港し來る司令官「ノーエル」大將を始め一行の將士等は直に上陸し同市の催しなる公園に於て盛大なる宴會に臨む翌十三日午前八時東京市の催しに係る日比谷公園の歡迎會に臨席の其折餘興として我國の國技たる相撲擊劍能狂言花火等を打上げ市中各商店は同艦隊の軍人に限り商品を一割引とし其他の大商店にては菓物コーヒー葡萄酒等を振舞ひ又電車は無切符にて乗車を許せしかば同艦隊も我國の好意を非常に喜び「ノーエル」大將は答禮の爲同艦隊の縦覽を許せしかば横濱波止場は大に賑ふ●十月十三日東郷大將は旗艦敷島に座乗し朝日富士の巨艦を始め其他戰捷の軍艦は皆伊勢灣に集合し津市贊岐の沖に投錨す頃日來東郷隊艦寄港の風説傳はり居し事なれば同艦隊投錨と共に數十發の花火を打揚げ官公吏を始めとし有志學生に至る迄數千百人の人々は皆海岸に整列し歡迎の意を表したり其他見物の群集は其數幾萬なるを知らず實に同地未曾有の盛觀たり程なく東郷大將は數多の部下を従へて伊勢大廟に參拜し再び聯合艦隊を率ゐて東京灣に入來り同月二十二日を以て東郷大將を始め各艦長及び部下一同の人々は目出度東京に凱旋す東京市民は此の空前の大捷を博し嚇々たる功名を荷ひ凱旋したる海軍の將士等を歡迎なすこと熱聲を極めたり此日東郷大將以下各艦長は宮中へ參内し 陛下に拜調の上親しく優渥なる勅語を賜はりたり●明くる二十三日は東京灣に於て我國空前の凱旋觀艦を舉行し 陛下御臨幸の上親しく之を閲し玉ふ參列の諸艦は百七十餘隻之に同盟國たる英國支那艦隊十二隻外に米國軍艦一隻を加へ東京灣内約八哩に數列に配置し 陛下には御召艦淺間號に御乘御遊ばされたれば淺間艦は橋頭高く天皇旗を掲げ徐々として各艦の間を進行す 陛下には始終甲板上に御起立遊され御親閱あらせられたりやがて豫定地に投錨するや司令官及び各艦長幕僚等を召され左の勅語を賜ひたり。

朕親ク凱旋ノ海軍ヲ閱シ其軍容整齊士氣大ニ振フヲ觀太々之ヲ擇フ倍々奮勵シテ帝國海軍ノ名聲ヲ發揚セヨ
東郷大將は一同の將士を代表して左の勅答文を捧げたり
親シク凱旋觀艦式ニ臨御ノ榮ヲ辱フシ且ツ優渥ナル勅語ヲ拜受シタルハ臣等ノ深ク恐懼スル所ナリ臣等益々奮
勵以テ聖旨ニ報ヒ奉ランコトヲ期ス
明治三十八年十月二十三日

聯合艦隊司令長官 海軍大將 東郷平八郎

此盛儀を拜觀せんとて式場附近の海上は勿論陸上は羽田六郷鶴見子安神奈川臺或は本牧に至るまで雲集するもの
二十萬を越え拜觀せる人々は目の當り海軍の威風を見彼の偉大なる功績を念ひ歡呼狂喜の有様は筆紙も之を寫す
能はず●二十四日東京市主催の海軍凱旋歡迎會は上野公園にて開かれたり●十一月伊勢大廟に戰捷報告の御
祭あり●同月十七日韓國協約發表せらる、韓國は我保護國となる●十二月陸軍凱旋式舉行あり●此月大本營を解
散す是にて戰役全く終結す●十二月二十二日滿州善後處分協約調印成る。

明治三十九年

此年一月西園寺内閣成る●此月韓國統監府を置き伊藤博文統監となる●此月旅順に
關東都督府を置く●我同盟國なる英國皇帝は親交の意を表する爲「コンノート」親王殿下を使ひとし我が 天皇陛
下に「ガーター」勳章を捧呈せんと來朝せられしかば宮中の御歡待は申すまでもなく朝野一般大に歡迎を表したり
●四月三十日陸軍凱旋大觀兵式を舉行す實に我國開國以來の大戦に世界無比の大捷を博したる凱旋觀兵式の事な
れば全國各師團の代表隊を擧げて皇城の西青山練兵場に召され元滿州軍の總司令官たりし大山元帥を觀兵式諸兵
指揮官に總參謀長たりし兒玉大將を諸兵參謀長に福島井口松井の各幕僚を諸兵參謀に仰せ付けられたりされば當
日は戰捷の光輝を有す 軍旗百十有九旗を捧持して出場したる兵員は總數四萬有餘と云ふ 天皇陛下には大元帥

の服裝を召され文武の百官及び外國武官を従へさせられ親しく御閱兵の後各隊の分列式を行ひたり其軍容の堂々
として其隊伍の爾々たる拜觀する者皆口々に征露の大捷も故なきに非ずと轉々感嘆措く能はず 陛下にも最も御
満足に御思召されたり●五月伯爵兒玉源太郎君薨せらる。

明治四十年

二月英國皇帝へ御答禮使として伏見宮貞愛親王を御差遣ある是は昨年「コンノート」親王
殿下英國皇帝の御使として「ガーター」勳章捧呈の爲來朝ありし答禮なり●五月樺太開應式を舉行す●六月日佛協
約發表せらる●七月日韓新協約を締結す●八月日露協約亦た發表せらる●十月 明治天皇の御生母一位局薨せら
る局は從一位大納言中山忠能の御息女慶子の方と申上しなり●此月 皇太子嘉仁親王(今上陛下)韓國に行啓遊ば
さる同地朝野の歡迎 頗る盛んなり●此月韓王即位の典を擧ぐ●十一月茨城地方に大演習を舉行せられ 陛下行
幸の上親しく統監遊さる●十二月韓太子良殿下留學の爲來朝す車駕芝離宮に幸し御引見あらせらる●此年鐵道國
有實施せらる。

明治四十一年

此年四月皇太子嘉仁親王殿下防長地方へ行啓あらせらる●四月二十四日 陛下第一
皇女常宮昌子内親王殿下竹田宮恒久王と御成婚あらせらる●七月四日西園寺内閣總辭職をなし再び桂内閣となる
●東宮殿下東北地方へ行啓あらせらる●此頃に至り都鄙共に奢侈に流れ物價は騰貴し人々生活に困難を感せし折
柄此年十月戊申詔書換發せらる。
朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟シ以テ其ノ福利ヲ共ニス朕ハ愛ニ國交ヲ修メ友義ヲ悖
シ列國ト與ニ永ク其慶ニ頼ラムコトヲ期ス願ミルニ日進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセントスル固ヨリ内國
運ノ發展ニ須ツ戰後日向淺ク庶政益々更張ヲ要ス宜シク上下心ヲ一ニシテ忠實業ニ服シ勤儉產ヲ治メ惟レ信惟
レ義醇厚俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒怠相賊メ自強息マザルベシ

抑モ我ガ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我ガ光輝アル國史ノ成跡トハ炳トシテ日星ノ如シ塞ニ克ク恪守シ津隅ノ誠ヲ輸
サバ國運發展ノ本近ク斯ニ在リ朕ハ方今ノ世局ニ處シ我忠良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シテ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖
宗ノ威徳ヲ揚センコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕ガ旨ヲ體セヨ

●十一月 天皇奈良特別大演習に行幸夫より神戸港外の大觀艦式に臨御あらせらる ●此月清國にては西太后皇帝
同時に崩殂す ●十二月日米覺書公布せらる ●此年熊本の人御船千鶴子千里眼を以て透視念寫を爲し又丸龜の人長
尾郁子も透視念寫を爲し一時心理學界の問題たりき。

明治四十二年

此年二月憲法發布二十年祝典舉行 ●三月四日第一外孫竹田宮恒徳王御誕生遊さる ●

四月二十九日周宮房子内親王殿下北白川宮成久王と御成婚 ●此月清國皇帝大葬參列の爲伏見宮貞愛親王を御差遣
●五月二十五日一時社會の耳目を驚かせし日糖事件も茲に終結を告げたり本事件は元兇秋山一裕磯村音介を初め
とし元日本製糖會社の社長たりし酒匂常明、常務取締役高津久右衛門、同取締役伊藤茂七、同監査役福川忠平、
同恒川新助、元會計課主任遠藤省三の八名に對する私書偽造行使、詐欺取財、横領罪、委託金費消、賄賂贈與罪
等なりされど右に附帶して二十餘名の代議士が瀆職罪によりて處分せられたる大疑獄なりければ世間の人は裁判
の結果如何にと按せしに其社長たりし酒匂常明は兵庫縣の士族にして長く農商務省に奉職せし程の者なれば流石
良心ノ苛責に堪えず裁判の進行中自宅車夫部屋にて自殺せり其餘の者は前掲の罪名の下に處刑を受け代議士栗原
亮一、横井時雄、白井、村松以下二十餘名の人々も各自處刑せられたり ●七月日韓覺書發表せらる ●間島問題解
決す ●九月東宮殿下には岐阜、福井、石川、富山の四縣へ御見學の爲十五日に東京御發轅あらせらる ●九月十五
日芝公園政友會本部にては同會設立十週年の紀念大會を舉行し朝來同黨員は車を連ねて參集す午前九時頃同黨員
田屋豊松(二十八)なる者受付所の傍に於て政友會股肱の壯士川上行義(五十四)に短刀を以て殺害されたり歎呼に

滿たさるべき會場も斯かる出來事の爲に凄愴の氣に蔽れしは遺憾至極の事ともなり ●十月二十六日伊藤博文哈
爾賓に於て韓人安重根の兇手に斃る是より先伊藤公爵は六月十四日を以て韓國統監の職を辭し樞密院議長となら
れしが十月十四日を以て滿州視察の途に上り其の序を以て極東巡視の途に上りたる露國大藏大臣「ココフソッフ」
と哈爾賓に於て會見せんと古谷書記森槐兩等を隨へ大連に渡り二十六日午前九時哈爾賓に着したるが此時既に先
着せる露國大藏大臣「ココフソッフ」の先導の下に「プラットホーム」に整列せる露國軍隊の前に至りし折柄群衆の
間に隠れたる韓國人安重根は短銃放ちて伊藤公を狙撃する事六回なり内三發は命中し公の右肺を貫きしかば何狀
以てたまるべきやられたと聲諸共に後ろに堂々墜れたり人々驚き急速に公を列車内に抱え込み介抱せしも其甲斐
なく遂に絶命せられたり此報一度傳るや内外愕然として弔意を表す 天皇陛下は直ちに末松謙澄、西紳六郎侍醫
桂秀馬を現場に遣し更に二十六日を以て博文を従一位に叙し國葬を賜ふべき旨御沙汰あり軍艦秋津州は大連に急
航し公の遺骸を搭載し其歸着するや十一月四日を以て日比谷公園に於て國葬を行ひ府下在原郡大井村字谷垂に埋
葬す ●伊藤公爵を暗殺せし韓國人安重根始め一味の者は現場に於て靛國官憲の爲めに捕れたり兇徒重根は韓國平
安道平壤外獵夫にして一に安應七とも稱し、羅馬カトリック教を信じ常に排日主義を鼓唱し居たるが伊藤公
爵統監の折屢々韓國統監の策を講せしを之れ漸次我國を併呑するものなりと妄斷し遂に此舉に及びしなり露國官
憲は兇徒等を我領事に引渡し大連高等法院に於て公判する事四ヶ月に及び四十二年二月十四日安重根を死刑に處
し其餘の者は懲役に處す斯る高官を殺せし兇徒を罰するに裁判過酷に失せずして能く公明を保らしと内外稱賛
おかざりけり。

明治四十三年

此年二月官吏増俸令出づ ●三月伏見宮貞愛親王日英博覽會名譽總裁として御渡英あ
らせらる ●五月 明治天皇第三皇女富美宮允子内親王殿下には朝香宮鳩彦王と御成婚あらせらる ●同月韓國統監

會禮荒助病ヲ以て辭職す依て陸軍大臣寺内正毅をして現職のまゝ韓國統監を兼しむ七月任地京城に赴く●八月我
 統監寺内正毅と韓國總理大臣李完用との間に韓國皇帝は韓國全部に關する一切の統治權を完全且つ永久に日本國
 皇帝陛下に讓與す外八ヶ條になる日韓併合條約成り八月二十二日を以て朝鮮は遂に我が統治に歸す●同月二十九
 日日韓併合の結果韓國の稱號は稱用せしむべきものにあらざるを以て勅令にて自今朝鮮と稱すべき旨發布あり韓
 國皇帝を自今李王と稱す●十月七日統監府を廢して總督府とし寺内伯を朝鮮總督に任じ且つ新に朝鮮貴族を設く
 ●此年十一月所澤飛行場に於て日野大尉「クナデー」式單葉飛行機を徳川大尉は「フアルマン」式復葉飛行機を操縦
 す●十一月廿八日南極探險隊長 白瀬中尉は一行二十七名と共に午前八時打揃ふて皇居二重橋外に至り遂に皇居
 を拜し御別れを告げ奉る此時白瀬中尉は極地に樹つべき國旗及び極地に埋むべき同情者芳名録とを前に置いて
 臣白瀬誠誠惶誠恐頓首百拜シテ

今上陛下ノ閣下ニ伏奏シ奉ル臣愚愛ニ本日ヲ期シ南極探險ノ途ニ就カントス今ヤ一行ノ部下ヲ率キテ 今上陛
 下ノ閣下ヲ拜スルニ當リ一ハ以テ廣大無邊ナル聖恩ヲ謹謝シ奉リ一ハ以テ臣等一行ノ素思ヲ貫徹セン事ヲ誓ヒ
 奉ラントス 今上陛下 希クバ臣等ガ微衷ヲ嘉納シ賜ハン事ヲ誠惶誠恐頓首百拜シテ白ス
 と聲高らかに讀み上げ聲涙共に下る思へば是より萬里の波濤を越へ人跡未到の極地に行き生きて再び皇土を踏む
 とも計り難くぞ思はれければ觀る者思はず袖を絞りけりかくて一行は午後三時半開南丸に打乗りて芝浦を出帆す
 海路幾多の艱苦と戦ひ翌年一月十六日南極ホエール灣に到着し上陸隊を組織して極地に向ひ進みしが途上氷山險
 しくして進行中々困難なり漸くにして七十八度三十部の地點に達し開南島と命名し國旗を樹て、歸途に就く。

●明治四十四年

此年一月十八日語るも忌むしき大逆事件の判決は降り抑も此大
 逆事件は明治四十三年五月被告宮下大吉なる者長野大林區署明科製材所に職工となりて入込む内同僚に向ひ盛ん

に無政府共產主義を鼓吹せし故松本警察署にても注意せし折小ブリキ罐數箇を密かに製造したることを探知し警察
 にては竊かに探偵せしところ是れ爆裂彈にてありしかば直に宮下大吉を捕縛し危險物を押收し段々取調せし所太
 吉は古河力作菅野スガ等と結託し至尊に對して大逆を敢行せんと謀りし事遂一白狀に及びしかば長野裁判所にて
 は事件容易ならざる故其旨直に檢事總長に上申す檢事總長も事の餘り重大なる爲め始めは信用せざりしも嚴密に
 取調し所以外にも幸徳傳次郎は過激なる社會主義を同志のものに唱導し本年秋季に於て至尊に不敬を加へんとす
 る事判りしかばこわ捨置くべからずと幸徳傳次郎以下二十五名の捕縛なし裁判の結果左の判決をなす。

- 死刑 幸徳傳次郎(一) 同 菅野すが(三) 同 森近運平(一) 同 宮下大吉(三) 同 新村忠雄(三)
 - 同 古河力作(二人) 同 奥宮健之(五) 同 大石誠之助(一) 同 成石平四郎(三) 同 松尾卯一太
 - (三) 同 新美卯一郎(三) 同 内山愚童(三) 同 坂本清馬(三) 同 高木顯明(三) 同 峯尾
 - 節堂(二) 同 崎久保清一(二) 同 成石勘三郎(三) 同 佐々木道元(三) 同 飛松興次郎(三)
 - 同 武田九平(三) 同 岡本頼一郎(三) 同 三浦安太郎(三) 同 岡林寅松(三) 同 小松丑治(三)
 - 有期懲役十一年 新田融(三) 有期懲役八年 新村喜兵衛(三)
- 右の趣き天聽に達せし所聖恩海の如き 天皇陛下には却て此頑迷なる被告を憐ませ給ひ既に死刑の宣吾を受け寒
 き獄舎の其内に日々消え行く運命の大逆不逞の内坂本清馬以下十一名を特に死一等を減じ無期懲役に處すべき
 旨の恩命を下し給ひしかば逆徒の中十二名は消ゆべき露の命をば聖徳の厚きに浴し再び天日を仰ぐを得其他幸徳
 傳次郎其妻菅野すが爾後の者は一月二十四日を以て東京監獄にて死刑を執行され憐れ刑場露と消ゆ之れより先
 時の總時大臣桂太郎、内務大臣平田東助、文部大臣小松原英太郎、農商務大臣大浦兼武の四剛臣は此の陰謀事件
 に對し責を負ふて待罪書を捧呈したるが二十日に優詔を賜はりたり

今や國家多事ノ際、卿等ノ職ヲ選クヲ許サズ將來益努カシテ國政ノ進善ニ盡スベシ
臣下を憐ませ給ふ御聖徳申すもなかりし畏し

●二月十一日紀元ノ嘉節に際して施療救療の詔勅を給ふその詔書に曰く
朕惟フニ世局ノ大勢ニ隨ヒ、國庫ノ伸張ヲ要スル方ニ急ニシテ、經濟ノ狀況漸ニ革リ、人心動モスレバ
其歸向ヲ謬ラントス、政ヲ爲スモノ宜シク此ニ鑑ミ、倍々憂勤シテ業ヲ勸メ教ヲ敦クシ、以テ健全ノ發達ヲ遂
グシムベシ、若シ夫レ無告ノ窮民ニシテ醫藥給セズ、天壽ヲ終ルコト能ハザルハ、朕ガ最モ軟念シテ措カザル
所ナリ、乃チ施療救療以テ濟生ノ道ヲ弘メントス、茲ニ內帑ノ金ヲ出シ、其資ニ充テシム、卿等克ク朕ガ意ヲ
體シ、宜シキニ隨ヒ之レヲ措置シ、永ク衆庶ヲシテ頼ル所タラシムルヲ期セヨ
●御内帑金百五十萬圓を下し賜へり是に於て濟生會を設立し桂侯是が會長となり、全國の富豪亦た各々資を出し
内帑金に合せて全國各地に施療所を設立して聖意に答へまつらん事を期したり ●同五日文藝獎勵會委員會及
通俗教育調査委員會官制發布 ●同月二十一日代議士藤澤元造氏は南北正閏教科書事件に付、衆議院に質問書を
提出し一時世論囂々たりしが政府の意見も遂に南朝を正統と決定し猶ほ明治天皇は百二十一代としたるを百二十
三代と改訂し南北正閏問題も落着したり ●四月九日午前十一時三十分東京新吉原江戸町一丁目貸座敷新花井樓
の二階より出火し折柄東南の風烈しく忽ち火は四方に廣がり吉原全部を燒盡し大門外五十間の引手茶屋を燒拂ひ
日本堤を越え田中町吉野町地方今月町及び下谷龍泉寺町の一部を燒失し遂に南千住に至り燒失戸數幾萬なるを知
らす死傷 亦夥だし折柄花見の時期にして白晝の火災なれば彌次馬連群集し非常の混雜を極めたり實に明曆江戸
大火、後二十二回目の大火にして近年稀有の火災なり ●同月十五日午前十一時潛航艇六號が周防新港沖に沈没
したる慘事あり是より先潛水艇司令官吉川大佐は潛水艇六號に操練の命令を下せしかば艇長佐久間大尉は乗組員

十四名を率ひ玖波灣外に潛航行動をなしたる折如何になしけん豫定の時間を経過するも更に浮揚し來らざれば司
令官以下心痛し數々搜索の結果玖波灣の沖合甲島附近に於て沈没したるを知りしかば十七日午前八時に至り起重
機を以て漸く引揚げを終り直に乘組員の安否を検せんものと艇庫を開かんとせしかど元來潛水艇の門扉は二重
三重の鐵扉なれば之を打破するに容易ならず五時間餘を費して漸く開扉する事を得たれば吉川司令は第一に身を
躍らして艇内に進み藤本水雷團長宮地工務部長等これに次ぎ艇内を検視せし處艇内一面の水に浸され艇長佐久間
大尉以下十四名の乗組員の人々は孰れも定まれる部署につき其儘空しく死し居る有様に並居る一同目を睜たき斯
る無残の最期を遂る今際まで職務を捨てぬ決心に感せぬ人こそ無りけりさる程に死體は母艦豊橋に移し吳に同航
し吳水雷團に於て最も壯嚴なる葬儀を營み天皇陛下も侍從を御差遣に相成り遺族に對し御手許金の御下賜ありた
りその乗組員の姓名は左の如し。

- 艇長大尉佐久間勉 △艇付中尉長谷川芳太郎 △機關中尉原山政太郎 △上等機關兵曹鈴木新六 △上等兵曹
- 小田勘一 △一等兵曹浴山馬槌 △一等機關兵曹岡田權治 △二等機關兵曹山本八十助 △同機皮德之丞 △
- 二等兵曹堤重太郎 △三等機關兵曹河野勘一 △同福原光太郎 △三等兵曹吉野悼治 △一等水兵遠藤德太郎
- 四月英國皇帝戴冠式に付東伏見宮依仁親王殿下を御差遣あらせられ乃木陸軍東郷海軍大將隨行仰せ付らる●
- 七月日英盟改約成る●桂侯以下授 陸軍の恩命あり●八月桂内閣總辭職を爲し西園寺侯再び内閣を組織す●十
- 月清國武昌に革命の變亂あり、黃興、孫逸仙の徒是が主謀者たり清朝之を征する能はず勢猖獗にして遂 南京
- を陥る是より東洋益多事なり●十一月中旬を以て九州肥筑の野に於て陸軍大演習舉行せらる 天皇陛下には
- 御統監の爲十一月九日東京を御發轍西幸の途に上らせ給ひたるが十日午後零時二十五分金駕門可驛に御着ありて
- 線路を轉換せんとする際「ポイント」に異變を生じ長れ多くも御召列車の脱線を惹起したるも幸にして玉體に恙

あらせられず其日久留米に御着あらせられ直に大本營に入らせらる其折鐵道員にして自己の不注意より斯か、失を引起したるを甚だ申譯なく思ひ切腹したるものありたり翌十一日より岡山村の御野立場に立せ給ひ親しく御統監あらせらる此折は第六及び第十八師團を南軍とし第十一、第十二師團及び混成第十一旅團を北軍として十四日迄演習を繼續し十五日觀兵式を舉行せられたり●十二月暹羅國皇帝戴冠式に付伏見若宮博恭王を御差遣あらせらる●此年税關恢復を目的とする改正條約成る即ち二月二十一日米國、四月三日英國、五月十九日瑞國、六月十五日諸國、七月十四日獨國と何れも調印成る又七月十三日日英同盟改訂せらる●此年十二月三十日、三十一日及び四十五年一月一日の三日に渡る東京電車運轉手車掌等の同盟罷工ありたり事の起りは電車の市營になる際舊東鐵會社は現業員總體へ六十萬圓を慰勞として分配することに定まり居りしを清算人等は少額の金員を與へし爲め運轉手車掌等は一年中尤も交通繁忙の時を計り遂に同盟罷工をなしたり因て東鐵清算人は彼等の希望を入れ十六萬五千圓を出して之を分配し一方には其首謀者四十名を捕縛し事なされるに至る。

●明治四十五年

●二月清國皇帝退位し茲に愛親覺羅氏の朝亡ぶ、袁世凱臨時共和政府を組織す舊曆元旦を以て民國二月廿八日と爲す●同月十日韓人尹致昊開城にて逮捕せられたり是より先日韓兩國を併合して朝鮮總督府を京城に設け寺内正毅伯總督として赴任せらる、や皇恩の普及と新政の透徹を計りしに頑迷守舊の韓民等は我國の眞意を疑ひ密かに黨を結び計を謀りけるが男爵尹致昊は基督敎の信者にして夙に朝鮮基督敎青年會の牛耳を取り聲望全道に普ねかりしかば總督政治に不平を抱ける外國宣敎師等は彼等を使喚煽動しければ遂に朝鮮總督暗殺の陰謀を企つるに至る然れども幸に早く我官憲の之を探知し四十四年九月より陰謀者の大檢舉を斷行し此に首魁を逮捕し亦與黨盡く緝につる何等の禍亂をなすに至らずして止みぬ●五月四十一年式野砲射擊演習天覽の爲千葉縣に行幸あらせらる

●同月士官學校幼年學校へ行幸あらせらる●六月十八日日佛銀行創立す●六月二十日南極探險隊芝浦に歸着し後援會主催の下に南極探險隊活動寫真を開催す●桂公爵は後藤男爵と共に日露協會の用件を兼ね歐洲大陸を漫遊して近時世界の視察をせんと七月六日を以て東京を出發し神戸より天草丸に搭乘し十二日大連に着し南滿鐵道に乘じ長春に至り更に東清鐵道に移乘して滿州里に出西比利亞鐵道に搭して廿一日午後四時十分恙なく露都聖都彼得斯堡に到着したり往年哈爾濱にて伊藤公の遭難もありし事とて露國官憲は桂公一行の爲に整備嚴重を極め多數の軍隊を通過鐵道の附近に配置し以て不則に備へし爲遂に何等の事故もなく二十一日の長途無事露都に到着するを得たり桂公一行露都に到着するや官民一同の歡迎頗る盛大にして總理大臣コーツオツアの如き、特に桂公の旅宿 訪ひ極東政策に付彼我の意見全く一致し日露新條約成立を報せらるゝに至りたるも偶々明治天皇御不例の報に接し蒼惶行李を修めて八月十一日に至りて東京に着したるが既に明治天皇崩御の後にして外遊の好果を奏上するを得ざりしは一行の遺憾とするところなり●七月十日 天皇陛下東京帝國大學卒業式親臨の爲め同大學へ行幸あり優等卒業者には恩賜品の御沙汰あり御機嫌麗しく御還幸あり同十五日には些か御不例に渡らせられしが押して臨時樞密院會議に出御あらせ給ひし是ぞ明治天皇の最後の行幸 出御にして億兆をして再び鳳轡を拜し龍顏を拜するに能はず噫嗚至深至大の聖德を追懷せしむる種とはなれり●七月二十日突如として 明治天皇御重患に渡らせらる、旨宮内省より發表ありたり、是より先大皇は嘗て三十七年糖尿 尿病を患はせ給せ次で三十九年一月に至るや慢性腎臟炎御伴發の發表ありて下萬民の哀愁茲に極まりしも爾來御腦御輕減あらせられ臣民愁眉を開きたるが本年七月十四日御腸胃症に罹らせ給ひ十五日より少しく御睡眠の御傾向あせられたるが十八日より御嗜眠益々増加して御食氣頻る減退し十九日午後に至りては精神些か御恍惚の御状態に陥らせて御腦症強く殊に御尿著しく減少して蛋白質増加し夜に入るや俄然御體温四十度五分、御脈膊百四、御呼吸三十八回を示すに至

らせ給ひの●從來關内御診察の事は宮中の侍醫之れを拜診するの例なりしも御病能容易ならざりしかば特に御召により醫學博士青山胤通、同三浦謹之助の兩名を宮中に召され拜診を仰せ付られたるが天皇御重患に渡らせらるゝこの悲報に接し全國の臣民は驚愕奮ふるに物なく深く謹慎の意を表し各所の神社佛閣に祈願所を設け赤心を捧げ御病氣御平癒の祈願を爲し日夜御容態書の發表を憂待したり特に宮城二重橋の折柄の炎暑も厭はず砂上に拜跪し遙かに御座所の方を拜し御平癒の一日も早からん事を祈願するもの老若男女幼少の輩日々數千人に及びたり我か皇后陛下に於かせられても天皇の御重患に陥らせ給ふや直ちに典侍柳原愛子、權典侍園祥子等を率ゐられ、天皇の御病室に入御して御手づから氷嚢を進め給ひ心身を盡して御看護あらせられ皇姫、皇太子妃、其他の皇親亦た盡く參内し御褥床に奉侍して御介抱申上げたり、當時皇太子殿下(今上天皇)には恰も御水痘に罹らせ給ひて東宮御所に御加養あらせられたるが父帝の御病症を聞知せらるゝや日夜御憂慮遊され遂に二十四日強て御床拂ひを仰せ付られ直ちに參内して御病褥に仕へ奉らせ給ひたり各國又此悲報を傳へて皇帝、大統領其他著名の官民より御見舞の電報を捧呈するもの日に幾十通なるを知らず我國の貴族重臣亦た夙夜宮内省に伺候して御病狀を奉伺して國內等しく心肝を碎きて専ら御快癒を祈念せし聖上の御容態は日を追ふに従ふて益々御増進し二十六日に至りては御脈膊百十至に至り御呼吸はシャイネストツク氏型に類似するに至り二十八日には四肢の痙攣を發して御苦悶の狀畏れ多き程なりしが侍醫等は午後カンフル及び食塩水の皮下注射を捧呈するに及んで御脈少しく緩和に向ひたるも尙依然として御重患なり此夜皇后陛下には振天府の脇に祭壇を設けられ女官等と共に伊勢の皇祖を遙拜して御平癒を祈願あらせらるされと聖上の御容態は刻一刻險惡を報せられ二十九日午前には御脈膊頗る微弱にして御四肢の末端暗紫色を呈して今は頼みも覺えなく渡らせられ遂に翌三十日午前零時四十三分を以て神去りましぬ時に鳳壽六十一、既にして御崩御の旨發表せらるゝや萬民の哀悼其極に達し恰も慈父の喪に接し

たるが如く毎戸葉を休み街頭自ら寂莫たり二重橋前に至りては依然として萬民群集し慟哭嗚咽の聲、永訣の赤誠を捧げたり●國民億兆の熱誠なる祈願も終に壽帝の容る所とならずして英聖文武仁無比の明治大帝も今哉上天を申ししかば皇太嘉仁親王の御哀悼や申すも恐れ多き程なりしが國家一日も帝位を曠ふする能はざるを以て其日午前一時宮中賢所に踐祚式を擧げさせ給ひ茲に我帝第二百二十四世の天皇として萬世一系の皇統を繼承あらせられ皇太子妃を皇后と、明治天皇皇后を皇太后を奉稱せしめ給ひたり●三十日改元の發布あり明治を改めて大正を元とする旨令せしめ給ひたるが大正とは公半傳に君子大居正、又見經臨の卦に大亨以正天之道也又大畜の卦に剛上而尚賢能止健大正也とあるによらせ給ひたるやにて初め樞密院に改元の御諮詢あるや同院にては大政大正稱徳等三様の案に付恭謹審議をなしたる末遂に大正を決定して奏答の運びをなしたるなりと云ふ●翌三十一日伏見宮貞愛親王の大喪使總裁に宮内大臣渡邊千秋を同副總裁に公爵鷹司通熙を大喪使祭官長に以下五十三名の祭官并に事務官の任命ありたり●今上天皇には踐祚を終らせ給ひたるにより七月三十日午前十時文武の百官を宮中正殿に召され玉平朗らかに左の勅語を賜ふ

朕俄カニ大喪ニ遭ヒ哀痛極リナシ但タ皇位一日モ曠クスベカラズ國政須臾モ廢スベカラザルヲ以テ朕ハ茲ニ踐祚ノ式ヲ行ヘリ

願フニ先帝叙明ノ資ヲ以テ維新ノ運ニ膺リ萬機ノ政ヲ親ラシ内治ヲ刷新シ外交ヲ伸張シ大憲ヲ制シテ祖訓ヲ昭ニシ典禮ヲ頌テ蒼生ヲ撥ス文教茲ニ敷キ武備茲ニ整ヒ庶蹟咸熙リ國威惟レ揚ル其盛徳鴻業萬民俱ニ仰キ列邦共ニ視ル寔ニ前古未ダ曾テ有ラザル所ナリ朕今萬世一系ノ皇位ヲ踐ミ政治ノ大權ヲ繼承ス祖宗ノ宏謨ニ遵ヒ憲法ノ條章ニ由リ之ガ行使ヲ愆ルコトナク以テ先帝ノ遺業ヲ失墜セザランコトヲ期ス有司須ク先帝ニ盡シタル所ヲ以テ朕ニ事ヘ臣民亦和衷協同シテ忠誠ヲ致スベシ爾等克ク朕ガ意ヲ體シ朕ガ事ヲ獎順セヨ

又た陸海軍大臣を召され陸海軍大臣に勅語を賜はりたり●八月二十五日先帝大行天皇を明和天皇と御追號あらせらる●九月十三日午後七時三十分明治天皇の御靈柩は御需車に奉りし天皇陛下御名代閑院宮載仁親王殿下皇后陛下御名代閑院宮妃智恵子殿下皇太后陛下御名代東伏見宮依仁親王妃周子殿下始め大喪使總裁大喪使祭官長以下祭官の人々及び文武百官に至る迄御奉送申上げ其列一里以上に及び午後十時三十分に至り青山葬場殿に御着あらせらる茲に於て天皇陛下皇后陛下皇太后陛下及び各國元首の御名代は御出迎ひ申上げ葬場殿に安置し奉り午後十一時には天皇陛下御親ら靈前に於て誄歌を捧げやがて特別の列車に靈柩を奉安し十四日午後五時十分桃山停車場に御着それより惣華輦に移し奉り百五名の八瀬童子之を捧持し桃山御陵御須屋に奉安し御名代閑院宮殿下始め大喪使祭官等の祭事ありて後御陵の中に神隠れ給ひぬ●九月十三日御大喪の當日に當り乃木大將夫婦殉死す抑も乃木大將は其名を希典と云ひ山口藩の藩士にして喜永二年十一月十一日に生る性剛直にして夙に勤王の志厚く維新後身を陸軍に委ね西南の役には軍旗を賊軍に奪れたりされどこは乃木將軍の罪にあらず誠に力及ばざりしなり故に後直に之れを取り返したりされど猶大將は深く之をばち切腹せんとせしを止められ、後日清日露の兩役には殊勳あり殊に旅順攻撃の折は二兒を失ひたりされば先帝も深く一將の忠節を嘉せられ後年學習院長に任せられ皇室の藩屏たる華族の子弟を教育せしめられしが一度先帝御重思の趣き發表せられし節は深く憂慮申上げ身を以て之に代らん事を神明に祈られけるが御登遐あらせられ、後は深く門を閉ぢて出でず御葬列の當日には陛下御眞影の御前に跪き御遺の號砲と共に大將は軍刀を以て切腹し夫人靜子は懷劍を以て自害し果たり其辭世に曰く

うつし世を神さりませし大君の御あとしたひて我はゆくなり

臣 希典 上

いであましてかへりこの日のなしとさき今日の御幸に逢ふぞかなしき

●十月上旬野不忍池畔に拓殖博覽會を開き樺太朝鮮滿州臺灣等の物産を出品し且つこれ等殖民地風景文物を油繪

又は人形を以て示す●臺灣生蕃の一行内地觀光の爲に來る●十一月十二日横濱沖大觀艦式御親閱の爲 天皇陛下行幸あらせらる其折參列の艦數百三十三隻噸數四十四萬三千八百三十噸也●同月十五日より武州川越地方に於て陸軍大演習舉行 天皇陛下行幸の上親しく統監あらせらる其折所澤飛行機大隊參加し成績大に好し●十二月十四日朝鮮二個師團増設問題の爲西園寺内閣總辭職す●同月二十一日桂公再び内閣を組織す

●大正二年 一月二十一日第三十議會停會を命せられ人心沸騰す是れ桂公が一度宮中の内大臣となり再び出て内閣總理大臣となり藩閥内閣を組織せし爲民黨の大反對を受けし爲めなり●二月十八日衆議院再停會を命せられしかば朝來衆議院附近に群集せる數萬の民衆は非常に憤激し喧噪甚しかりければ之を制せんとして騎馬巡查人民を馬蹄にかけしかば群集の激昂其極に達し夜に入るや遂に都國民、やまと、報知、二六の新聞社襲撃となり夜に入りて上野警察署を始め市内四十餘ヶ所の交番を焼打す●桂内閣辭職し山本權兵衛伯政友會の後援を以て内閣を組織す●同月二十日午前一時頃神田三崎町救世軍殖民館より出火し折柄西北の烈風にて火は忽ちに燃え廣がり附近八ヶ町の大部分を焼失し習朝午前八時鎮火す焼失戸數二千五百戸餘●三月三日静岡縣沼津に大火あり全町の殆ど三分の二を焼失す●同月二十三日支那革命黨の志士宗教仁上海にて暗殺せらる●同月二十八日陸軍飛行將校砲兵中尉木村鈴四郎歩兵中尉徳田金一の兩氏所澤より帝都訪問の歸途 澤より西方約一千突を距りたる松井村字牛沼の麥畑へ墜落し名譽の死を遂ぐ是れ我國に於る最初の飛行家の遭難慘死なれば全國の人大に同情をよせ遺族を吊慰し義捐金を送る●四月一日直江津富山間に鐵道開通す●五月三日米國加州に於て排日案通過す爲に我國民論沸騰し政府攻撃盛なり●此月民間飛行家茨城縣人武石浩坡氏大阪朝日新聞主備の都市聯終飛行を試み大阪より京都深草練兵場に至らんとす着陸の際墜落して死す●同月六日日本郷湯島小學校の五年生徒市川に遠足を試み栗市の渡船場に於て渡船轉覆の爲に三名溺死す●七月十日先年來舞子御用邸に於て御病氣御靜養中なる有

栖川威仁親王殿下薨去遊され十七日豊島が岡に御葬儀執行あらせらる●同月二十日有名なる芝二本榎工藤家五人殺及び同町小澤丑松外二人殺しの犯人荒内鎌太郎遂に發覺して捕縛せらる●同月二十六日暴風雨襲來府下及び近縣大害を蒙る又東北地方二十年來の洪水にて慘狀を極む●九月五日時の外務省政務局長阿部守太郎氏は刺客岡田滿の爲めに自宅に於て刺殺さる●同月七日右犯人岡田滿は牛込に於て自殺し共犯人宮本千代吉は大連に遁走せんとし字品に於て捕縛せらる●十月十日桂公爵は三田の邸に於て薨去せられ十九日世田ヶ谷松陰神社の側に葬る●同月十七日早稻田大學創立三十年式舉行す此日大隈伯始め高田學長外重なる人々は希臘古代の服裝をなし早稲田の健兒三千を率ひ提灯行列を爲し皇居二重橋前に至り萬歳を唱へたり●同日北陸線岩瀬驛に於て列車衝突し死者二十四名重傷者九十名を出す●十一月十日千葉縣木更津沖に於て恒例大觀艦式舉行す●十一月十二日より名古屋地方に於て陸軍特別大演習舉行せらる●同月二十二日前征夷大將軍徳川慶喜公は小石川大六天町の自邸に於て薨去あらせらる三十日谷中墓地に葬る此日東京市中は前將軍に敬意を表し各學校は休校し毎月吊旗を掲げ業を休む者多く歌舞音曲を停止したり●十九日臺灣陰謀事件の首謀者羅福星臺北淡水にて捕縛る●此年東北及び北海道大凶作の爲め大慘狀を極む。

大正三年

此年一月四日伊豆國船山沖にて汽船愛鷹丸沈没し船長始め百餘名顛死す●同月十二日鹿兒島縣櫻島大爆發し電動數日に及び島内の諸村盡く全滅し鹿兒島市も亦被害少からず●同月十四日小笠原島附近に海上の噴火ありて新島を湧出し盛んに灰を降らす降灰風の爲に遠く東京市に及びたり●二月十日衆議院に内閣強効案出づ此日日比谷公園に國民大會あり群集衆議院門前に集まり喧噪を極め夜に入りて中央新聞毎夕新聞の兩社の襲ふ又海軍收賄問題起り司法當局檢舉に努む●三月廿三日山本總理大臣以下内閣總辭職をなす●同月二十日東京市の主催にて上野に大正博覽會を開く●四月十一日先帝明治天皇の後妃皇太后陛下御崩御遊さる十二日より

三日間御停止一ヶ年御大喪令出づ●同月十六日大隈重信内閣總理大臣を拜す●同月廿六日重松中尉青山練兵場より所澤飛行場に歸還し折墜落して無慘の最後を遂げらる五月十二日日本派本願寺(西)の宗務大改革ありて大法主大谷光瑞伯引退辭職し伯の法弟光明師の令息光昭君僅かに五歳にして新法主となる●同月二十四日午後八時四十分神隠れまして皇太后陛下の御大葬式を行はせらる代々木練兵場に葬場殿を設け御陵は伏見桃山の明治天皇御陵の東方に御定めあり御諡號は昭憲皇太后と仰せ遊さる上下擧つて哀悼の至誠を盡し天皇陛下には全國慈善救恤金として金六十萬圓御下賜せらる●同月二十九日海軍收賄問題の中心人物松本和澤崎寬猛等の犯罪確定公表せられ松本は海軍中將を剝奪せられ懲役三年追徴金四十萬九千八百圓澤崎寬猛は海軍大佐を剝奪せられ懲役一年追徴金一萬五千五百圓を申渡さる●八月十五日我國は獨逸政府に最後通牒を發し膠州灣租借權無條件返附を迫り次で二十三日日獨宣戰大詔煥發となり我國も亦世界大動亂の渦中に投ずることなれり●九月二日我陸軍は支那山東の後方龍山に上陸せり●九月四日臨時議會開會せられ軍事費の協賛を議す此日 天皇陛下には議會に親臨せられ勅語を賜はる●九月五日我艦隊は海軍飛行機敵偵察をなさしめしに深く敵地に入りて無線電信所海兵團等に爆彈を投下し多大の損害を與えたり我國にて飛行機を實戰に應用せしは之を以て嚆矢とす●同月十日臨時議會閉會す●十月十四日我南洋艦隊はヤルット島アリアナ島東西カロリン島を占領す●同月十八日高千穂艦は膠州灣封鎖作業中敵の驅逐艦エヌ九十号の發射水雷の爲に沈没し僅かに三名生存せる悲惨事ありたり●同月廿三日日本赤十字社にて救護班を組織し露國に派遣せり●同月三十一日青島總攻撃を開始す此日天長節祝日に當るを以て世間にては實彈祝砲と稱せり●十一月二日傳染病研究所は内務省より文部省に移管せりよつて北里博士以下所員の重立たる者總辭職す●同月七日青島陥落す捕虜約八千人なり●同月十日夜東京實業組合の提灯行列あり又花電車運轉ありて市中大ひに賑ふ●同月十三日關西特別大演習あり天皇陛下大阪へ御發遊遊さる●同月廿二日青島俘虜淺

草本願寺に收容す●十二月二日若鍋炭礦爆発す●同日我日本赤十字社にては救護班を佛國に派遣す●同月八日青島出征艦隊凱旋す●同月十八日花の日會組織せられ貴顯の夫人令嬢等街路に立ちて造花の徽章を鬻ぐ●同月廿日中央停車場を東京驛と號して開場し附近大に賑ふ

大正四年

一月十一日有坂式火砲の發明者陸軍中將有坂成章君死す享年六十四歳●同月十二日 天皇陛下東京驛落成後初めて同驛より御乗車遊さる●同月廿七日暹羅國王弟カムカンテツト殿下妃殿下御同伴にて御來朝あらせらる●二月六日軍艦淺間墨西哥沿岸巡航中暗礁に擱座す幸ひに死傷者一名もなし●同月十四日大坂北濱銀行頭取岩下清周其他の者同銀行資金八百萬圓亂用の爲拘引せらる●同月十七日東京府理事官高橋清太郎大正博覽會の經理課長たりし折收賄せし舊惡暴露して收監せらる●同月二十三日所澤大坂間の長距離飛行を舉行し澤田阪本の二中尉操縦して行程一百二十五里を突破す●三月七日海軍飛行機追濱飛行場にて墜落し安達大尉武部中尉柳瀬一等水兵慘死す●四月廿九日墨西哥の同胞保護の重任を帯びて長途の航海を爲せる出雲艦歸航す日程十八ヶ月鵬程五萬哩なり●五月一日十圓紙幣改正發行せらる●五月廿七日天理教大檢舉あり●八月一日南洋諸島の會長キング、ジョン、シグラ以下二十二名入京す●九月二十二日衆議院書記官長林田龜太郎以下の瀆職事件豫審決定す、次で大浦兼武隠居す●同月十六日乃木祭に際し乃木家再興の御思召を以て毛利元智に恩命降り乃木姓を稱せしめ伯爵に叙せらる●十月三日御大典紀念京都博覽會 開場式を擧ぐ●同月七日明治神宮御敷地代々木地鎮祭を執行す●十一月六日天皇陛下御即位式御舉行の爲め京都に行幸あらせらる、賢所を奉安して東京を御遊遊さる●七日京都に御安着あり同時に賢所は春興殿に渡御の御儀あり●十日御即位の當日なれば皇靈殿に奉告の御儀賢所 大前御視察の御儀紫宸殿高御座に於て御儀ありて陛下より御即位の御勅語あり、此日御即位の時刻には大日本帝國は津々浦々山間僻陬に至る迄四民皆一齊に萬歳を高稱し鼓腹擊壤して泰平を歡呼せり●十四日大嘗祭

の御儀あり●二十七日東京へ御還行同時に 賢所は温明殿還行の御儀あり●十二月二日青山にて大觀兵式を舉行す●此日第四王子澄宮崇仁親王殿下御誕生遊さる●同月四日東京灣にて大觀艦式舉行せらる●同月九日東京市御大典奉祝祭を舉行し 陛下の御臨幸を仰ぎ各戸旭旗球燈を掲げ又花電車を運轉し市中大に賑ふ

大正五年

此年九月三日支那朝陽波附近にて支那兵我軍旗に發砲す●同月十一日閑院宮殿下聖旨を奉じて露國に赴く●同月廿七日北陸線に大なる地這りありて爲に筒井驛海中に突入す●十月四日大隈内閣總辭職をなす●同月九日寺内正毅伯聖旨を奉じて内閣を組織す●十一月三日迪宮裕仁親王立太子式を擧げさせられ市民歡呼して提灯 行列を爲し其他數々祝賀の催しありて市中大に賑ふ●十二月十三日獨逸皇帝媾和の提議を爲したるため株式界大に喧噪を極めたり

大正六年

此年一月二十五日帝國議會を解散す●三月八日陸軍飛行家澤田中尉墜落して惨死せらる●三月十六日露都に革命起り帝政を廢してスレンスキー氏共和政府を起つ●四月二十日總選舉あり●五月五日大阪安治川東京倉庫會社藥品庫に大爆發ありて死傷夥しく其爆首十里四方に聞ゆ●五月廿二日羽前米澤市に大火あり焼失家屋二千餘戸に及ぶ●六月六日外交調査會組織せらる●六月十一日地中海に於て我驅逐艦神敵の潜水艇を攻撃中敵の魚雷を受け大破し艦長上原太一少佐機關長竹垣純信少佐等戦死す●十一月三十日松井駐佛大使ヴェルタン市長に對し天皇陛下御下賜の日本刀を同市に授く

大正七年

此年四月十九日九州八幡製鐵所疑獄事件豫審決定せられ同所技師萩原時二博士以下廿四名の收賄罪成立す、是より先押川長官災ひの其身に及ばんことを恐れて自殺す●五月六日農商務省は米穀買占者増田貫一其他十名に戒告を發す●五月十九日東京府下碑文谷の踏切りにて番人の不注意より交通を遮断すべき開閉器を開放ちありし爲め午前一時五分下の關行直行列車は通行人を轢殺せしかば踏切番竹内芳松須山由五郎の兩人は

職責を重んじ兩人喋し合せ次の列車にて轢死を遂げしかば世間又も其心中を感じ遂には活動又は芝居に仕組み各所に上演なしたり●六月十八日英國コンノート殿下東京驛に御着あらせられ我天皇陛下に元帥杖を捧呈せらる●七月四日下の關驛場内にて運送中の陸軍火藥大爆發を爲し慘狀筆紙に盡し難し●七月十六日勞兵會の兵士前露國皇帝ニコラス及び皇太子を銃殺す●八月六日富山縣滑川町に米騒動起り次て四國高松市岡山市堺市名古屋京都大阪より十三日は東京市内に及び遂には全國各地に勃發す●同月十三日天皇陛下細民を憐ませ賜ふ大御心より御内帑金參百萬圓御下賜せられたり●同月十六日穀物收用令公布せらる●九月廿九日原内閣成立す是れ我國政黨内閣の嚆矢なり●十一月十二日の獨逸皇帝皇后及び皇太子はヒンデンブルク元帥其他と共に和蘭に逃る●十一月廿一日東京市休戰條約成立祝賀會を舉行す

●大正八年

此年一月五日女優松井須磨子故島村抱月の後を追ふて自殺す年三十四●一月十四日西園寺公望牧野伸顯珍田捨已松井慶次郎伊集院彦吉の五氏媾和全權委員に任命せらる●一月三十一日農商務省官吏山田憲外米商鈴木辨藏を慘殺す●二月十八日西比利亞單騎旅行にて有名なる陸軍大將福島安正薨●二月下旬東京に於て朝鮮學生暴動す●三月上旬京城不穩なりしが四月に及び朝鮮各地に暴動勃發す●四月廿日東京國技館工事中大鐵傘崩る●四月廿二日横濱千歲町より出火三千戸焼失す●五月七日媾和條約案を獨逸委員に交附し六月廿八日双方調印して平和克復を告げたり●五月九日東京奠帝五十年祭あり●六月十八日戰利品獨逸潛航艇横須賀に着す●七月十六日自由民權の主唱者板垣退助伯薨す●七月中旬石川島造船所博文館印刷所等に同盟罷業起り次て七月末より八月初めに亘りて東京各新聞社職工の同盟罷業ありたり●八月下旬小石川砲兵工廠同盟罷業又川崎造船所のサボタージュありたり●八月廿一日上野家庭博覽會焼失す●九月二日海軍大將齋藤實男爵朝鮮總督となり水野練太郎氏政務總監となりて京城に赴任するや不逞鮮人の爲に爆彈を投せられたり●九月二日大阪國技館開館

式を行ふ●十月七日政友會本部焼失す●同月十三日大阪市電車從業員同盟罷業す●同月廿九日萬國勞動會議米國華府に開く我國の委員として政府代表鎌田榮吉吉岡實資本家代表武藤山治勞動者代表榊本卯平氏を撰定す榊本氏代表に就ては各勞動團體の物議を招きたり●同月三十一日外務大臣官邸にて天長節夜會の當夜門外に爆彈を投じたるものあり●十一月福州事件あり又上海の自稱朝鮮獨立政府外交次官呂運亨を東京に招ぎ赤坂離宮菊花拜觀せしめし爲政府の處爲を非難する者多し●十二月東京市電車從業員の八時間制運動起り又川崎造船所にては眞先に八時間制ヲ布 たり●十二月廿七日帝國ホテル焼失す

●大正九年

一月十一日午前一時十五分(佛國の時刻にて十日午後四時十五分)佛國ベルサイユ宮殿に於て佛、英、伊、日、白、其他聯合諸國及び獨逸の代表者は講和條約批准交換をせり、大戰勃發は大正三年七月二十八日、休戰條約は大正八年十一月十一日なりしが、茲に講和條約批准交換をなして完全に効力發生せり●二十六日獨逸俘虜ワルデツク總督以下千二百名赦放せらる●二月六日九州八幡製鐵所に同盟罷業起る●十一日東京上野に普選大會あり●二十五日東京電車息業す●二十六日四十二議會普選案討議中突然解散せらる●二十六日大阪大丸呉服店焼失す●三月十五日東京株式取引所は諸株暴落追徴一億萬圓の爲立會を中止す●十八日西比利亞尼港に於てバルチザンの爲に領事館を燒拂はれ石田領事三宅參謀を殆め在留日本人全部虐殺せらる●四月一日電話度數制實施●二十一日李王世子良殿下と梨本宮方子女王殿下と御婚儀調はせらる●五月三十一日伊國マシエロ中尉、フェラリン中尉羅馬より飛行機にて東京代々木に着す(二月十五日に羅馬を發せり)●六月二日多門支隊尼港 占領す●二十日羅馬尼皇太子カロール殿下神戸御上陸、廿三日入京せらる●廿九日四十三臨時議會を召集す此夜議會の正門を爆彈にて破壊せるものあり●七月二十六日衆議院にて島田三郎氏大臣投機問題を提出して議場燦然たり●八月四日大戰後の駐日大使としてソルフ博士來る●三十日午前二時三十分上州伊香保温泉宿龜屋より

出火し全町の三分の一を焼失す●九月二日米國議員國入京す●四日大阪川北電氣會社員西山瑤六外務省通商局長齋藤氏を短銃にて射撃す●七日講員西園寺公爵以下に行賞あり●十二日北支揮春に不逞鮮人馬賊と共謀して我領事館を襲ふ●十四日鮮人陰謀團員朴孝赫釜山警察署長を襲撃せんとし反つて爆弾にて自ら負傷す●十月一日國勢調査を全國一齊に行ふ●五日午後三時五十五分丸の内東京驛前日曜學校大會場全焼す●十一月一日より三日迄明治神宮の祭典にて東京全市大ひに賑ふ。

大正十年

二月十二日皇道大本教不敬事件發覺す大正宗教史上に一大汚點を残す●三月三日我皇太子殿下御渡歐の途に就かせらる同日午前八時三十分東京宮御所御出門十一時三十分横濱港御出艦、御召艦は軍艦香取、供奉艦鹿島●四月六日午前廿分淺草田町中村富左衛門方より出火折柄の辰己風にて焼失戸數一千四百戸近來の大火なり●五月十五日借地借家法執行せらる●七月十二日神戸三菱工場閉鎖事件あり之れ勞資問題騒動の最大なるものとす亦川崎造船所にも罷工騒動あり、同月廿九日三菱及川崎兩罷工團と警官隊と澁川及び楠公社前にて大衝突あり死傷者多數を出す、我國工場罷業中最大なる争議なり●九月二日東京殿下御歸朝此の日前八時房州館山灣に御入港、今夜當灣内に御一泊當夜沿岸漁村の青年囃子船を以て御旅情を慰め奉つた、同三日午前八時四十分横濱御入港同十時十分御退艦同十一時十分東京驛御着、御出發以來滿半歲些の御恙もなく御航海日數九十二日、御陸上日數九十二日總一百八十四日御往復航程二萬三千三百海里御訪問國五ヶ國、英、佛、白、和、伊國なり世界平和の爲め御効顯偉大なるを感拜す●九月廿八日午前八時三十分一世の大富豪安田善次郎君、兎及の爲めに斃る行年八十四歳、犯人朝日平吾は自ら滿州浪人と稱し三十歳の青年なり、犯人亦即時安田家の應接間に於て自及す●十月三十日午前八時五分木挽町歌舞伎座全焼す●十月三十一日明治神宮寶物館落成す十一月三日より公衆の拜觀を許す●十一月四日午後七時廿五分東京驛改札口にて總理大臣政友會總裁原敬君近畿大會に臨ま

んとして刺さる直ちに絶命す、犯人は大塚驛の轉轡手中岡良一と稱する十九歳の少年にして即時捕縛さる、原總理行年六十六歳同十一日郷盛岡市黄藤宗大慈寺に於て埋葬す遺言に依るなり●十一月十八日より三日間武相山野に於て特別大演習行はる 東宮殿下御代統なり。

大正十一年

一月四日丸之内中央郵便局全焼損害三百萬圓●十日大隈重信侯薨去す、十七日國民葬の名により葬儀を日比谷に行ふ●廿三日信越國境の大風雪六列車を埋没●三十日横濱に大火あり眞金町四十戸東吉田町百九十戸全焼●二月一日山縣有朋公薨去す九日國葬を行ふ●三日親不知附近の大雪山崩排雪列車を埋め即死八十九名重傷四十餘名を出すの慘事あり●五日建造中の土佐高尾加賀愛宕の四艦に中止を命ず軍縮の犠牲也●三月十日此日平和博開會式を舉ぐ●三十日東京市疑獄の判決あり高橋義信の懲役二年以下有罪六十五名無罪二●四月三日保津川鐵橋上にて列車顛覆死傷八十名●十二日英太子御來朝皇室及び國民の歡迎熱誠を極む●十三日北海道夕張大火五百戸全焼●三十日鶴見に三少女慘殺事件あり●五月四日信州飯田町大火六百廿戸を焼く●八日深川鎮江裏町の瓦斯タンク爆發重傷者四十九名●九日英太子鹿兒島より御退去一寸木飛行曹長墜死●十日治警五條改正●十二日保險魔川本匡へ死刑宣告●六月十二日中岡良一へ無期懲役、橋本榮五郎へ無罪の判決●二十日東京良子女王御婚儀勅許●廿五日淳宮へ秩父宮の新宮號宣下●七月一日大阪鐵工所の争議暴動化して織工重役邸を襲ふ●五日お初殺しの慘事發覺す●七日宮城縣荊田郡宮村小學校の訓導小野さつき子學童の溺死を救はんとして職に殉ず●八月三日北國飛行中の海軍飛行艇邑知瀉に墜落、菅沼中尉半松兵曹慘死、谷田少佐以下五名重傷を負へるを始め五日には奈良大尉霞ヶ浦に、六日吉川飛行士幕張に、十日尾久軍曹各務ヶ原に何れも墜死空中慘事相次ぐ●十五日全國午砲廢止●三十日軍艦新高鸕鷹偵察加に沈没、僅かに兵員十六名を残すのみ古賀艦長以下三百廿名悉く溺死す●九月三十日千葉縣銚子町に虎疫、生各地に蔓延す●十月一日コレラ東京を襲ひ日を逐うて猖獗殆

と全市に蔓延して二百名近くの眞症患者を出す●三日攝政宮富士五湖へ●八日大阪瓦期岩崎工場のタンク爆発死傷百六十名●十三日日蓮上人に「立正大師」號宣下●十一月十一日金鳥飛行機始めて東京大阪間に飛ぶ●十二月十二日海賊船大輝丸の一味警視廳自首、巨魁江連力一郎以下の罪狀明白となるに及び世上を驚駭せしむ。

●大正十一年 一月一日我國立法後、始めて不良少年保護法即ち少年法施行せらる、其の保護所を矯正院と稱す●九日東京市外澁谷町六百戸を焼失す●此月中旬東京大相撲は力士會と年寄會の紛擾起り相撲道の情儀亂れ師弟相争ふに至る●下旬には日本石油會社經營の新瀉鐵工場争議事件あり●廿九日露國極東全權ヨツフエ氏來朝す千爵後藤新平氏の招待なり●二月一日佛國御滞在の中北白川宮殿下は、同妃殿下、朝香宮殿下を御同乗、巴里郊外エヴェル地方へ御自ら自動車御操縦御疾走中ブレーキの故障の爲め御遭難、北白川宮殿下は數分間に御薨去、妃殿下朝香宮殿下亦御重傷●四日伏見宮貞愛親王殿下銚子御別邸瑞鶴壯に御薨去●七日有栖川宮大妃薨去●十四日故伏見宮殿下國葬の禮を行ふ●廿七日信州駒ヶ嶽爆發す●三月十一日大野醫學博士婦人凌辱事件にて有罪決定す、此日越前福井市大火千三百七十戸を焼失す●十三日福井縣三國町紡績工及千葉縣野田町醬油工同盟罷業を行ふ●十八日京都岡崎公園に奈良水平社と國粹會の争擾あり●四月九日眞宗立教七百年祭を京都に行ふ●十二日 攝政宮殿下横須賀軍港より臺灣民情御見學の爲め御發航行啓あらせらる●五月一日 攝政宮殿下炎熱百〇八度の臺灣各地御巡遊終らせられ横須賀へ御歸港直ちに葉山御用邸へ 兩陛下御對面、二日東京御還啓此日群馬縣高崎に水平社大會あり閉會後不威運動行列の爲め百五十名檢擧さる●四日將來の東宮妃、久邇宮良子女王殿下は御兩親宮御妹、宮御同伴香推宮御參拜及九州方面御巡遊の途に上らる、此日文部省より常用漢字一千九百六十三字同略字百五十四字發表さる●十二日早稻田大學の文化園と軍事研究園との紛擾あり●十三日文中田清治郎に對する舟木芳江の紛擾事件發表さる●十五日前の東京驛長高橋善哉氏自動車にて江戸川畔進行し過島水死す●廿一日大阪築港市立大運動場に於て第六回東選手權競技大會開催され、日、比、中、三ヶ國

精銳選手により行はる、當日我が秩父總裁の宮殿下御臨臨、令旨を賜ふ、今回極東選手權競技大會ヲ我が大阪ニ開催スルハ予ノ欣快トシテ其守神ヲ鍛練セシムルニ止マラズ各邦ノ人士一場ニ相會シ公正謙讓ノ精神ヲ以テ益々其ノ技術ヲ磨キ兼テ相互ノ輯睦ノ厚ウセシムルニ至レリ、予ハ參會者諸士ガ克ク本會開催ノ趣旨ヲ體シ運動競技ノ眞精神ヲ發揮スルニ遺憾ナカラシムルコトヲ望ム

斯くて本大會は六日間行はれ概して日本選手優勝す●廿八日北白川故宮殿下御遺骸香取丸にて神戸御着●廿九日下野銀行取附休業●六月十四日過激思想結社團體大檢擧あり●十九日 皇后宮 女子學習院に婦徳の御歌「うつぶして匂ふ春野の花莖」人の心にうつつしてしかな」を賜ふ●廿九日有栖川宮妃慰子殿下湯ヶ原御轉地中薨せらる

●七月一日信州輕井澤にて文士有島武郎と波多野秋子情死す●十四日秩父宮アルプス御登山同日早稻田大學講師猪又事件あり●廿七日 攝政宮殿下富士御登山あらせらる●此月十三日より八月七日に亘り京都奥村電氣商會の勞働争議あり●八月一日朝鮮平城大洪水あり●廿一日新造潜水艦第七十號淡路假屋沖に公試運轉中沈没す殉死者八十名大尉池田艦長外五名救助さる●廿四日田尻稻次郎君及び加藤友三郎君各自宅に永逝す●廿五日内田外相臨時首相の親任式あり●九月一日午前十一時五十八分四十四秒突發せる關東大地震は帝都神奈川千葉静岡岡山梨崎玉の一府五縣を襲ひ安政以來の大慘狀を呈す大震火災中に新内閣は伯爵山本權兵衛大命を拜し首相外務を兼ね内務後藤新平大藏井上準之助陸軍田中義一海軍財部彪農商務兼司法田健次郎遞信兼文部大藏兼鐵道山之内一次により組織せらる所謂地震内閣と稱す今當時慘害を略記すれば地震と同時に水道斷れ忽ち火災を起し帝都三分の二を焼失し横濱横須賀又灰燼全滅鎌倉は震火津浪に全滅し御痛はしくも 山階宮佐紀子女王殿下御妊娠の爲め吾妻博士拜診中倒潰御薨去御母賀陽宮大妃御重傷 東久邇宮第二王子師正王は津浪をうく災害地は時に不逞鮮人爆彈全滅、閑院宮寛子女王の薨去伊豆東海岸も亦震火津浪外房州は二日續きの津浪をうく災害地は時に不逞鮮人爆彈投下の流言起り非常自警團を組織し不逞者に備る等人心恐々たり、帝都の火災は三日朝七時に至り漸く鎮火す古今未曾有の事なり二日新内閣親任式を猛火中赤坂離宮萩の御茶屋に行はる、同時に并發令發せられ軍隊によつて秩序を維持す鐵道運輸通信機關不能故に飛行機傳書鳩船上無電にて慘害模様を各地に報す●三日 天皇陛下は御

内帑金壹千萬圓を罹災民に賜ふ同日朝秩父宮殿下日光より御歸京混亂中を第三聯隊に御歸隊平常の御勤務に服され七日燒跡御視察する、賀陽宮恒憲王、久邇宮邦久王兩殿下は聯隊御勤務中他の將校と共に救護に御盡力あらせらる、東宮、良子女王の御婚儀は御思召により明春に御延期あらせらる、四月各地の食料及物品東京芝浦に來る、五日慘害地救済配給を始む、七日支拂延期令發す、八日より各銀行開く、十五日攝政宮御乘馬罹災地實況御視察越へて十八日再び御愛馬山吹に召され木所被服廠跡に燒死者の靈を偲ばせ給ふ、十六日憲兵甘柏大尉其部下と共に共産主義者大杉榮妻伊藤野枝甥橋宗一七才を同夜憲兵隊樓上に監禁絞殺せる事件あり世に甘柏事件と言ふ、廿二日火保支拂要求大會を東京に開く、廿五日暴利商人檢舉あり、廿九日日本所服廠跡に慘死者大追弔會を執行す東京市主催なり同日東海道瀛車全通す、大震災の損害七十億圓燒失倒潰東京神奈川縣にて家屋四五、一六四八戸死者一〇、二二二一人傷者一三、四五六〇人なり、十月一日警視廳調査東京市在住人口一五二、九一六六人にして七割強減なりと、廿二日兩日中に七十号潜水艦殉難死体八十名を收容す、廿三日皇族會議により久邇宮邦久王殿下臣籍降下決定翌廿五日少尉御任官と同時に侯爵家創始あらせらる、十一月一日赤坂乃木神社鎮座式行はる、廿六日日本郵船乗組海員神戸に於て罷業起る、十五日一代の名士島田三郎氏逝く、卅一日皇后宮被服廠跡を弔はせらる、十二月五日關西地方大地震徳島高知地方最も強烈なりき、八日甘柏事件公判にて大尉甘柏正彦懲役十年曹長森慶次郎同三年餘人は無罪の言渡あり、十六日大杉榮の遺骨掠奪事件あり、廿七日攝政宮帝尊會議第四十八議會開院式御臨啓途中虎の門に於て不敬事件突發す爲めに山本内閣責任總辭職決す、廿九日一代の高潔議員維新の志士河野廣中君逝く、〇三十日第百銀行頭取池田鎌三君逝く。

●大正十二年 一月二日新内閣首相として清浦奎吾子爵大命を拜受す、七日清浦内閣親任式行はる首相清浦奎吾外務松井慶四郎内務水野練太郎大藏勝田主計陸軍宇垣一成海軍村上格一司法鈴木喜三郎文部江木千之農商務前田利定逓信藤村鐵道小松謙次郎世俗之れを貴族内閣と言ふ、五日一鮮人二重橋前にて爆彈を投じ直ちに捕はる、十五日關東第二回大地震あり一時交通止る、廿六日東宮殿下、久邇宮良子女王殿下との御成婚舉行さる市民の歡喜災後を忘る、卅一日第四十八議會突序解散さる。

講演者 瀧澤善太郎

大正十三年四月二十九日印刷
大正十三年五月 二二日發行



發行所

東京市下谷區竹町十四番地
櫻井口陸東京三三三三二番

天正堂書店

著者
發行印刷者

東京市下谷區竹町十四番地
嵯峨濃平左衛門

關西一手取次販賣所

大阪西區本田通り二丁目五十二番地

河野光磨

公告定價壹部金七拾錢

東京帝國史談會

注意

本書は内務省届済にて著作権を有したる者なれば他人若し類似の著作を為したる時は著作権法に據り發行者及び販賣者共に五十圓以上五百圓以下の罰金に處せらるべし

終